



Sun Fire™ X4250 サーバー オペレーティングシステム インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5739-10
2008 年 8 月、改訂 A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

本製品には Sun Microsystems, Inc. の機密情報および企業秘密が含まれています。Sun Microsystems, Inc. の書面による事前の許可なく使用、公開、または複製することを禁じます。

本製品にはサードパーティーによって開発された素材が含まれている可能性があります。Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Solaris、および Sun Fire は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel Inside は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品は、米国輸出管理法の対象であり、これらの法律により管理されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律の対象となる可能性があります。原子力、ミサイル、生物化学兵器、または海洋核戦力の最終用途での本製品の使用、またはそれらに携わるエンドユーザーによる本製品の使用は、直接あるいは間接を問わず、固く禁じられています。米国の通商禁止国または輸出禁止リストに掲載されている団体、禁止対象の個人や特別に指定された国の国民などに対する輸出または再輸出は固く禁じられています。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

目次

はじめに ix

1. オペレーティングシステムのインストールの概要と準備 1
 - サポートされているオペレーティングシステム 2
 - その他の OS サポート 2
 - 付属のインストールガイドの保管 2
 - サポートされている Linux バージョンを Sun から購入するには 2
 - OS のインストール準備 3
 - インストール中のサーバー出力へのアクセス 4
 - プライマリブートディスクの消去 4
 - ▼ プライマリブートハードドライブを消去する 5
 - プリインストールされた診断パーティションについて 5
 - サーバーの RAID の構成 5
 - Sun StorageTek RAID を使用した RAID のサポート 6
 - LSI SAS3081E-R Card を使用した RAID のサポート 7
 - RAID ドキュメント 7
 - OS のインストール方法の選択 7
 - CD または DVD の使用 8
 - Sun Installation Assistant の使用 8
 - ネットワークインストールの使用 9

仮想 CD-ROM を使用したりリモートコンソールの使用 9

シリアルリダイレクトの使用 10

2. RAID の構成 11

RAID の構成 11

LSI SAS3081E-R コントローラカードの RAID の作成 12

開始前のご注意 12

▼ LSI Logic SAS3081E-R コントローラカードの RAID を作成する 12

Sun StorageTek コントローラカードの RAID の作成 13

開始前のご注意 13

▼ Sun StorageTek コントローラカードの RAID を作成する 13

Sun StorageTek コントローラカードでのディスクの非 RAID 構成 14

3. Solaris オペレーティングシステムのインストール 15

OS のインストール 15

OS インストールの概要 16

OS のインストール方法 17

CD/DVD メディアおよびモニターを使用したダイレクトインストール 17

▼ CD/DVD メディアおよびモニターを使用してダイレクトインストールを行う 18

CD/DVD メディアおよびシリアルポートを使用したダイレクトインストール 18

▼ CD/DVD メディアおよびシリアルポートを使用してダイレクトインストールを行う 18

JumpStart ネットワークインストールを使用したインストール 20

▼ JumpStart ネットワークインストールを使用してインストールする 20

シリアルコンソールを使用したインストール 21

▼ シリアルコンソールを使用してインストールする 22

ローカルコンソールを使用したインストール 23

仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでのインストール	24
▼ 仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでインストールを行う	24
サーバー固有のドライバのインストール	26
ドライバインストールスクリプトの使用	26
リモートコンソールによるドライバのインストール	26
サーバーへのドライバのダイレクトインストール	26
▼ ドライバをサーバーにダイレクトインストールする	27
RAID 管理ユーティリティーソフトウェアのインストール	27
▼ Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティーソフトウェアをインストールする	28
4. Linux オペレーティングシステムのインストール	29
オペレーティングシステムのインストール	29
OS インストールの概要	30
OS のインストール方法	31
Sun Installation Assistant を使用した Linux のインストール	31
CD/DVD メディアを使用したインストール	31
PXE を使用したインストール	32
仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでのインストール	32
▼ 仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでインストールを行う	33
システム固有ドライバのインストール	34
ドライバインストールスクリプト	34
KVMs Over IP を使用したドライバのインストール	35
Sun Fire X4250 サーバーへのドライバのダイレクトインストール	35
Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティーソフトウェアのインストール	36
▼ Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティーソフトウェアをインストールする	36
▼ LSI RAID 管理ユーティリティーをインストールする	37

アップデートユーティリティーの実行 37

RHEL OS 用の up2date ユーティリティーの実行 37

▼ RHEL OS 用の up2date ユーティリティーを実行する 38

SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティーの実行 38

▼ SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティーを実行する 38

5. Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール 39

オペレーティングシステムのインストール 40

Windows Server 2003 OS インストールの概要 40

Windows Server 2003 OS インストール方法 41

Sun Installation Assistant を使用した Windows Server 2003 のインストール 41

DVD または CD-ROM メディアを使用した Windows Server 2003 のダイレクトインストール 42

RIS を使用した Windows Server 2003 のインストール 42

仮想 CD-ROM を使用したりモートコンソールでの Windows Server 2003 のインストール 42

Windows Update の実行 44

RAID 構成を指定した Windows Server 2003 のインストール 44

Sun StorageTek または LSI ドライバを含む Reburn CD を使用した Windows Server 2003 のインストール 45

▼ Sun StorageTek または LSI ドライバを含む Reburn CD を使用して Windows Server 2003 をインストールする 45

ドライバのフロッピーディスクを使用した Windows 2003 のインストール 47

Sun StorageTek ドライバのフロッピーディスクを使用した Windows Server 2003 のインストール 47

▼ Sun StorageTek ドライバのフロッピーディスクを使用して Windows Server 2003 をインストールする 47

LSI SAS3081E-R ドライバを含む Windows Server 2003 のインストール 48

LSI 3081E-R RAID ドライバの起動ディスクの作成 48

▼ LSI SAS3081E-R RAID ドライバの起動ディスクを作成する 48

LSI 3081E-R ドライバのフロッピーディスクを使用した Windows Server 2003 のインストール 49

▼ LSI 3081E-R ドライバのフロッピーディスクを使用して Windows Server 2003 をインストールする 49

ドライバのインストール 50

リモート KVMS を使用したドライバのインストール 50

Sun Fire X4250 サーバーへのドライバのダイレクトインストール 50

▼ Sun Fire X4250 サーバーにドライバを直接インストールする 50

Windows Server 2003 用の RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール 52

Windows Server 2003 用 Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール 52

▼ Windows Server 2003 用 Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティソフトウェアをインストールする 52

Windows Server 2003 用 LSI RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール 53

▼ Windows Server 2003 用に LSI RAID 管理ユーティリティソフトウェアをインストールする 53

6. VMware のインストール 55

VMware について 55

VMware のインストールと管理ドキュメント 56

VMware ESX Server インストールの作業マップ 56

ネットワークインタフェースの計画 57

CD/DVD からの VMware ESX Server のインストール 57

開始前のご注意 57

▼ CD/DVD から VMware ESX Server をインストールする 57

ローカルメディアからの VMware ESX Server のインストール 58

▼ ローカルメディアから VMware ESX Server をインストールする 59

VMware のアップデートおよびパッチ 59

A.	Solaris 出力のシリアルポートへのリダイレクト	61
	▼ Solaris 出力をシリアルポートにリダイレクトする	61
B.	Windows RIS インストールの実行	63
	Windows Server 2003 SP1 32 ビット版のインストール	63
	▼ Windows Server 2003 SP1 32 ビット版をインストールする	63
	Windows Server 2003 SP1 64 ビット版のインストール	68
	▼ Windows Server 2003 SP1 64 ビット版をインストールする	68
C.	ネットワークインタフェースの構成	73
	索引	75

はじめに

本書『Sun Fire X4250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』では、サーバーを構成して使用可能な状態にするためのオペレーティングシステムのインストールおよびソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

本書の構成

本書は次の章で構成されています。

第 1 章では、Sun Fire X4250 サーバーにオペレーティングシステム (OS) をインストールする際の準備について概要と手順を紹介します。

第 2 章では、サポートされている SAS コントローラカードを使った RAID の構成に関する情報が記載されています。

第 3 章では、Solaris™ 10 OS をインストールする手順について説明します。

第 4 章では、サポートされている Linux OS をインストールする手順について説明します。

第 5 章では、Windows Server 2003 をインストールする手順について説明します。

第 6 章では、VMware をインストールする手順について説明します。

付録 Aには、Solaris OS 出力のシリアルコンソールへのリダイレクトに関する情報が記載されています。

付録 Bには、Windows リモートインストールサービス (RIS) インストールの実行に関する情報が記載されています。

付録 Cには、サポートされている Solaris および Linux オペレーティングシステムのネットワークインタフェース構成に関する情報が記載されています。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

書体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

Sun Fire X4250 サーバーのドキュメントセットの説明については、サーバーに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。Sun Fire X4250 サーバーのドキュメントは、次のサイトで参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4250>

翻訳版のドキュメント

Sun Fire X4250 サーバーの翻訳版のドキュメントは、次のサイトで参照できます。

<http://docs.sun.com>

ドロップダウンリストから言語を選択し、製品カテゴリのハイエンドサーバーおよび x64 サーバーのリンクを使って Sun Fire X4250 サーバーのドキュメントに移動します。Sun Fire X4250 サーバーのドキュメントについては、簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、日本語、韓国語の翻訳版が入手可能です。

英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

ドキュメント、サポート、および トレーニングの URL

分野	URL	説明
ドキュメント	http://docs.sun.com/	PDF バージョンまたは HTML バージョンのドキュメントのダウンロードや印刷バージョンのドキュメントの注文
サポートと トレーニング	http://www.sun.com/support/ http://www.sun.com/training/	テクニカルサポート、パッチのダウンロード、Sun のトレーニングコースの詳細

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

Sun Fire X4250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド (820-5739-10)

オペレーティングシステムのインストールの概要と準備

この章では、Sun Fire X4250 サーバーに新しいオペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を説明します。また、OS のインストールを準備する手順も紹介します。

この章には、次の節があります。

- [「サポートされているオペレーティングシステム」\(2 ページ\)](#)
- [「OS のインストール準備」\(3 ページ\)](#)

注 – お使いの Sun Fire X4250 サーバーに Solaris™ 10 オペレーティングシステム (OS) がプリインストールされている場合、オペレーティングシステムの構成方法については、『Sun Fire X4250 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

サポートされているオペレーティングシステム

サーバーには Solaris 10 オペレーティングシステム (OS)、またはそれ以降のバージョンがプリインストールされている場合があります。プリインストールされている Solaris OS を使用しない場合は、以下のサポートされる OS の最低バージョン以降をインストールすることができます。

- Solaris 10 05/08
- RHEL 4.5/4.6 32 ビット版/64 ビット版
- RHEL 5 U1 64 ビット版
- SLES 10 SP1 64 ビット版
- Windows Server 2003 Enterprise 32 ビット版/64 ビット版
- VMware ESX 3.5

その他の OS サポート

ほかのオペレーティングシステムについても、Sun Fire X4250 サーバーの初回リリース後にサポートを開始する予定です。サポートされるオペレーティングシステム一覧の最新版は、<http://www.sun.com/servers/x64/X4250/os.jsp> で入手できます。

付属のインストールガイドの保管

サポートされているオペレーティングシステムのインストール方法は、それぞれの OS ソフトウェアに付属しているメディアセットに記載されています。インストールガイドを保管し、参照しながら手順を行ってください。

サポートされている Linux バージョンを Sun から購入するには

サポートされているバージョンの Red Hat および SUSE オペレーティングシステムは、<http://www.sun.com/software/linux/index.html> で注文できます。

OS のインストール準備

次の作業マップは、新しいオペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を示しています。

手順	作業の説明	節/手順
1.	ディスプレイの環境を設定します。	「インストール中のサーバー出力へのアクセス」(4 ページ)
2.	Solaris OS 以外の OS をインストールする場合は、プライマリブートディスクを消去する必要があります。サーバーに Solaris OS がブリーインストールされている場合は、まずそれを削除してから新しい OS をインストールします。	「プライマリブートディスクの消去」(4 ページ)
3.	サーバーで RAID を構成します。サーバーで RAID を構成する場合は、OS をインストールする前にいくつかのセットアップ作業が必要となります。	「サーバーの RAID の構成」(5 ページ)
4.	OS をインストールし、ドライバをアップデートし、必要に応じて OS アップデートを実行します。	「OS のインストール方法の選択」(7 ページ) と、インストールする OS に対応する章を参照してください。 「Solaris オペレーティングシステムのインストール」(15 ページ) 「Linux オペレーティングシステムのインストール」(29 ページ) 「Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール」(39 ページ)

インストール中のサーバー出力へのアクセス

OS のインストール CD を使用する際 (または Tools and Drivers CD を使用して作業する際) にローカルの CD/DVD ドライブとディスプレイを使用しない場合は、次のディスプレイ環境のオプションを使用します。

- サービスプロセッサ (SP)、または物理ポートを介してシステム出力をシリアル表示します。ILOM SP を使用して、シリアルコンソールを介してシステム出力を表示する方法については、『Sun Fire X4250 サーバー設置マニュアル』を参照してください。
- ILOM のリモートコンソール機能を使用します。仮想 CD を操作するためのリモート KVMS Over IP のセットアップ方法については、『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

プライマリブートディスクの消去

Sun Fire X4250 サーバーのハードディスクドライブには、ハードディスクドライブの構成によって Solaris 10 OS がインストールされている場合があります。別の OS をインストールするか、または Solaris 10 OS を再インストールする場合は、Sun Fire X4250 サーバー Tools and Drivers CD のメインメニューの「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクを消去する)」オプションを使用します。このオプションを使用すると、前にインストールされていたオペレーティングシステムを消去して、新規インストール用の領域を得ることができます。



注意 – Tools and Drivers CD から「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクを消去する)」オプションを選択すると、診断パーティション以外の、ハードドライブ上のすべてのパーティションが消去されます。すべてのユーザデータが失われるため、この操作を開始する前に、ハードドライブをバックアップしてください。

▼ プライマリブートハードドライブを消去する

1. ハードドライブの保存する必要があるデータをバックアップします。
2. サーバーの CD または DVD ドライブ (オプション) に、Tools and Drivers CD を挿入します。
CD または DVD ドライブがないシステムをお使いの場合は、『Sun Fire X4250 サーバー Service Manual (Sun Fire X4250 サーバーサービスマニュアル)』で、PXE サーバーから Tools and Drivers CD をブートする方法を参照してください。
3. Tools and Drivers CD からシステムをブートします。
4. メインメニューが表示されたら、Tools and Drivers CD のメインメニューから次のオプションを選択します。
 4. Erase Primary Boot Hard Disk
このオプションを選択すると、プライマリハードドライブ上に現在あるすべてのパーティション (診断パーティション以外) が消去されます。診断パーティションだけは消去されずにそのまま残ります。

プリインストールされた診断パーティションについて

Sun Fire X4250 サーバーには、診断パーティションがプリインストールされています。診断パーティションがサーバーから削除されている場合は、『Sun Fire X4250 サーバー Service Manual (Sun Fire X4250 サーバーサービスマニュアル)』を参照し、Sun Fire X4250 サーバーサーバーの Tools and Drivers CD から診断パーティションを再インストールする方法を確認してください。

サーバーの RAID の構成

Sun Fire X4250 サーバーは、Sun StorageTek™ および LSI SAS3081E-R RAID コントローラカードをサポートしています。この 2 つのカードについては、次の節で詳しく説明されています。

- 「[Sun StorageTek RAID を使用した RAID のサポート](#)」 (6 ページ)
- 「[LSI SAS3081E-R Card を使用した RAID のサポート](#)」 (7 ページ)

Sun StorageTek RAID を使用した RAID のサポート

Sun StorageTek RAID は、多数のハードウェア RAID 構成をサポートしています (表 1-1 を参照)。このカードは、Sun Fire X4250 サーバーのすべてのオペレーティングシステムでサポートされています。StorageTek コントローラカードを使った RAID の構成の詳細については、インストールする OS に対応する章を参照してください。

表 1-1 SAS カード別の RAID ドライブオプション

SAS カード	サポートされている RAID 構成
Sun StorageTek	ボリューム: ディスク 1 台 RAID 0 ストライプ、最小ディスク数 2、冗長性なし RAID 1 ミラー、最小ディスク数 2、ドライブ使用率 50% RAID 1E 最小ドライブ数 3、ドライブ使用率 50% RAID 10 最小ドライブ数 4、ドライブ使用率 50% RAID 5 最小ドライブ数 3、ドライブ使用率 67 ~ 94% RAID 5EE 最小ドライブ数 4、ドライブ使用率 50 ~ 88% RAID 50 最小ドライブ数 6、ドライブ使用率 67 ~ 94% RAID 6 最小ドライブ数 4、ドライブ使用率 50 ~ 88% RAID 60 最小ドライブ数 8、ドライブ使用率 50 ~ 88% スパンボリューム 最小ドライブ数 2、ドライブ使用率 100% RAID ボリューム 最小ドライブ数 4、ドライブ使用率 50 ~ 100%
LSI 3081E	IM (統合ミラー) アレイ。最小 2 台のディスクに加え、最大で 2 台のホットスペアディスク。プライマリディスク上のデータをマージ可能。 IME (統合ミラー拡張) アレイ。3 ~ 8 台のディスク、最大で 2 台のホットスペアを含む。作成中にすべてのデータが削除されます。 IS (統合ストライピング) アレイ。2 ~ 8 台のディスク。作成中にすべてのデータが削除されます。

LSI SAS3081E-R Card を使用した RAID のサポート

LSI SAS3081E-R SAS カードは、SAS ハードディスク用のすべてのオペレーティングシステム、およびいくつかの RAID レベルをサポートしています (表 1-1 を参照)。LSI PCIe カードの取り付けおよび配線に関する手順については、『Sun Fire X4250 サーバー Server Service Manual (Sun Fire X4250 サーバースerviceマニュアル)』を参照してください。LSI の RAID のサポート要件は、次のとおりです。

- LSI SAS3081E-R カードおよびケーブルが取り付けられている
- 最大 16 台の SAS ハードディスク

RAID の構成の詳細については、インストールする OS に対応する章を参照してください。

OS	節
Solaris	「Solaris オペレーティングシステムのインストール」(15 ページ)
Linux	「Linux オペレーティングシステムのインストール」(29 ページ)
Windows Server 2003	「Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール」(39 ページ)

RAID ドキュメント

Sun StorageTek および LSI SAS3081E-R SAS コントローラカードの RAID 関連ドキュメントは、次のサイトの Sun Fire X4250 サーバードキュメントコレクションで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4250#hic>

OS のインストール方法の選択

この節では、OS のインストール方法の概要を示します。

方法	節
CD/DVD	「CD または DVD の使用」(8 ページ)
Sun Installation Assistant (SIA)	「Sun Installation Assistant の使用」(8 ページ)
ネットワーク/PXE	「ネットワークインストールの使用」(9 ページ)
リモートコンソール	「仮想 CD-ROM を使用したリモートコンソールの使用」(9 ページ)
シリアルリダイレクト	「シリアルリダイレクトの使用」(10 ページ)

CD または DVD の使用

この方法では、サーバー内蔵の CD/DVD ドライブ、およびシステムに接続された VGA モニターを使用して、サーバーに直接 OS をインストールします。

特定の OS の CD または DVD によるインストールについては、お使いの OS インストールソフトウェアに付属のドキュメントや、本書中の OS 固有の章で説明しているオンラインドキュメントを参照してください。

Sun Installation Assistant の使用

Sun Installation Assistant (SIA) は、x64 Sun Fire および Sun Blade サーバーで使用されるツールで、サポートされている Linux および Microsoft Windows オペレーティングシステムをインストールするときに役立ちます。SIA の場合、SIA メディアをブートし、プロンプトに従うことで、を使用すると、オペレーティングシステム (OS)、適切なドライバ、追加のシステムソフトウェア (必要な場合) をインストールできます。

SIA により OS インストールプロセスが自動化されるわけではありません。OS のインストール手順に従う必要がありますが、システムハードウェアの情報を収集したり、Sun でサポートされる最新のデバイスドライバを検索してダウンロードしたり、ドライバ CD を別途作成したりする必要はありません。これらの作業は、SIA が実行します。

SIA の特徴と利点

SIA には、次のような特徴と利点があります。

- プラットフォームでサポートされているブートメディア (CD、ハードディスク、コンパクトフラッシュ) への GUI を使用した Linux または Windows OS のインストール
- Sun でサポートされている最新の OS レベルデバイスドライバ、およびシステムで必要なシステムソフトウェアのインストール (必要な場合)
- 次のような柔軟性の高いブートオプション
 - サーバーに接続されているローカルドライブ (CD/DVD または USB フラッシュドライブ)
 - リモートリダイレクトネットワークドライブ (仮想 CD-ROM または ISO イメージ)
 - PXE ネットワークブート
- サーバーの次の特性を識別する自動識別機能
 - プラットフォームハードウェア
 - 搭載されているオプションカード
 - サポートされている必須のデバイスドライバ
 - オペレーティングシステムメディア (オペレーティングシステムソフトウェアは SIA インストール中にお客様が用意する必要があります。)

- 無人インストール機能 (監視オプションを利用可能)
- 直感的なエラーメッセージ
- 使いやすいログファイル

ネットワークインストールの使用

この方法では、ホストサーバー上でインストールをセットアップし、Preboot Execution Environment (PXE) プロトコルを使ってネットワーク経由で OS をインストールします。ネットワークインストールには、次のようなものがあります。

- SUSE の AutoYast
- Red Hat の Kickstart
- Solaris OS の JumpStart™
- Windows のリモートインストールサービス (RIS)

特定の OS のネットワークインストールの詳細については、お使いのインストールソフトウェアに付属のドキュメントや、本書中の OS 固有の章を参照してください。Sun Fire X4250 サーバーの RIS インストールの手順については、[付録 B](#) を参照してください。

仮想 CD-ROM を使用したリモートコンソールの使用

この方法では、ネットワーク接続されたリモートシステムを使用して Sun Fire X4250 サーバーに OS をインストールします。リモートシステムの CD/DVD (仮想 CD-ROM) ドライブを使用して OS メディアにアクセスします。Sun Fire X4250 サーバーの出力は、リモートシステム (リモートコンソール) に表示されます。Integrated Lights Out Manager (ILOM) でリモートコンソールを使用する詳細については、『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

リモートコンソールを使用したインストールの詳細については、『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』や、お使いのインストールソフトウェアに付属のドキュメント、本書中の OS 固有の章を参照してください。

注 – この手順は、ユーザーが ILOM の Web GUI の管理に慣れていることを前提としています。詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』を参照してください。

シリアルリダイレクトの使用

この方法では、サーバーの出力をサーバーのシリアルポートに接続されている端末に送ります。他の OS での詳細な手順については、お使いの OS のインストール手順や、本書中の OS 固有の章を参照してください。

RAID の構成

この章では、Sun Fire X4250 サーバー上での RAID の構成について説明します。サポートされている 2 つの SAS コントローラカード、Sun StorageTek および LSI SAS3081E-R で RAID を構成するための手順を取り上げます。また、非 RAID 構成のセットアップ手順についても説明します。

この章には次の節があります。

- [「RAID の構成」 \(11 ページ\)](#)
- [「LSI SAS3081E-R コントローラカードの RAID の作成」 \(12 ページ\)](#)
- [「Sun StorageTek コントローラカードの RAID の作成」 \(13 ページ\)](#)

RAID の構成

注 – 非 RAID 構成でディスクを使用している場合は、この節をスキップして [「Sun StorageTek コントローラカードでのディスクの非 RAID 構成」 \(14 ページ\)](#) に進んでください。

Sun Fire X4250 サーバーは、次の RAID カードをサポートしています。

- SG-XPCIE8SAS-I-Z 8 ポート内蔵 SAS PCIe HBA
- SG-XPCIESAS-R-INT-Z 8 ポート内蔵 SAS RAID PCIe HBA

サポートされている RAID 構成は、カードの種類によって異なります (表 1-1 を参照)。RAID の構成は、カードの BIOS で行います。各カードで RAID を構成する方法については、次の節を参照してください。

- [「LSI SAS3081E-R コントローラカードの RAID の作成」 \(12 ページ\)](#)
- [「Sun StorageTek コントローラカードの RAID の作成」 \(13 ページ\)](#)

LSI SAS3081E-R コントローラカードの RAID の作成

開始前のご注意

LSI SAA3081E-R コントローラカードを使ってサーバーの RAID を作成するには、次のものがが必要です。

- サーバーに搭載された LSI SAS3081E-R コントローラカード。SAS コントローラカードの設置手順については、『*Sun Fire X4250 Server Service Manual* (Sun Fire X4250 サーバーサービスマニュアル)』を参照してください。
- 搭載されている LSI コントローラカードのユーザーガイドは www.lsi.com で入手できます。
- RAID のドキュメントは、サーバーのドキュメントコレクションと共に次のサイトで入手できます。 <http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4250~sf-hba#hic>
- 最新の Sun Fire X4250 サーバー Tools and Drivers CD
- サーバー出力にアクセスできるようにディスプレイを設定します (「インストール中のサーバー出力へのアクセス」(4 ページ) を参照)。

▼ LSI Logic SAS3081E-R コントローラカードの RAID を作成する

1. サーバーの電源をオンにします。
2. ビデオ出力を観察し、LSI SAS カードが認識されたら、Control-C キーを押して LSI コントローラカードの BIOS セットアップユーティリティーに切り替えます。
3. LSI Integrated RAID のユーザーズガイドに記載されている指示に従って RAID を設定します。
4. RAID ユーティリティーを終了します。
5. 使用する OS をインストールします。
6. RAID を管理するための LSI ユーティリティーの最新版を <http://www.lsi.com> からダウンロードするか、Tools and Drivers CD の RAIDmgmt ディレクトリからコピーします。

Sun StorageTek コントローラカードの RAID の作成

開始前のご注意

Sun StorageTek コントローラカードを使ってサーバーの RAID を作成するには、次のものがが必要です。

- サーバーに搭載された Sun StorageTek コントローラカード。コントローラカードの設置手順については、『*Sun Fire X4250 Server Service Manual* (Sun Fire X4250 サーバーサービスマニュアル)』を参照してください。
- 装着されている RAID コントロールカードのユーザーガイドおよび RAID 関連ドキュメントは、次のサイトのサーバーのドキュメントコレクションで入手できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4250~sf-hba#hic>
- 最新の Sun Fire X4250 Tools and Drivers CD
- サーバー出力にアクセスできるようディスプレイを設定します (「インストール中のサーバー出力へのアクセス」(4 ページ) を参照)。

▼ Sun StorageTek コントローラカードの RAID を作成する

1. サーバーの電源をオンにします。
2. ビデオ出力を観察し、Sun StorageTek カードが認識されたら、Control-A キーを押して Sun StorageTek コントローラカードの BIOS セットアップユーティリティに切り替えます。
3. Sun StorageTek のユーザーズガイドに記載されている指示に従って RAID を設定します。
4. BIOS セットアップユーティリティを終了します。
5. 使用する OS をインストールします。
6. Linux を使用している場合は、Tools and Drivers CD から `install.sh` を実行し、最新の RAID ドライバにアップデートします。
7. Tools and Drivers CD の RAIDmgmt にある最新の Sun StorageTek 管理ソフトウェアをインストールします。

Sun StorageTek コントローラカードでの ディスクの非 RAID 構成

デフォルトでは、搭載されているすべての SAS ディスクが LSI カードによって認識されます。ただし、ディスクがシステムの BIOS によって認識されるためには、Sun StorageTek カードでディスクをそれぞれ初期化し、ボリュームを作成しておく必要があります。各ディスクを初期化するには、次の手順に従ってください。

1. サーバーの電源をオンにします。
2. ビデオ出力を観察し、Sun StorageTek カードが認識されたら、Control-A キーを押して Sun StorageTek コントローラカードの BIOS ユーティリティに切り替えます。
3. BIOS ユーティリティのメインメニューから「Array Configuration (アレイ構成)」を選択します。
アレイ構成画面が表示されます。
 - a. 一覧の次のディスクに移動するには、スペースバーを押します。
 - b. 各ディスクで Enter キーを押します。
 - c. ディスクの消去 (アレイから削除) か維持 (アレイに追加) のいずれかを選択します。
4. 「Create Array (アレイの作成)」を選択します。
 - a. ボリュームを選択します (これにより、非 RAID 構成の単一ディスクが作成されます)。
 - b. ボリューム名を入力してボリュームを作成します。
5. Esc キーを 2 回押し、「Yes (はい)」を選択して BIOS セットアップユーティリティを終了します。
6. サーバーをリブートします。
Sun StorageTek カードにより、初期化したディスクがすべて認識されます。

Solaris オペレーティングシステムのインストール

この章では、Sun Fire X4250 サーバー への Solaris 10 OS およびサーバー固有のドライバのインストールについて説明します。

この章には次の節があります。

- 「OS のインストール」 (15 ページ)
- 「サーバー固有のドライバのインストール」 (26 ページ)

注 – OS のインストールを始める前に、BIOS でコントローラカードを構成する必要があります (「RAID の構成」 (11 ページ) を参照)。

OS のインストール

この節には、Solaris 10 OS をインストールするときのガイドラインを示します。次の項目について説明します。

- 「OS インストールの概要」 (16 ページ)
- 「OS のインストール方法」 (17 ページ)
- 「リモートコンソールによるドライバのインストール」 (26 ページ)
- 「サーバーへのドライバのダイレクトインストール」 (26 ページ)

OS インストールの概要

この章では、Solaris OS と、サポートされているドライバのインストールについて説明します。Solaris OS をインストールする場合の作業マップについては、表 3-1 を参照してください。

表 3-1 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

手順	タスク	説明	指示書
1.	サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを構成します。	『Sun Fire X4250 サーバー設置マニュアル』
2.	OS インストールに向けてサーバーを準備します。	ディスプレイの環境を設定します。必要に応じてプライマリブートディスクを消去します。	第 1 章 オペレーティングシステムのインストールの概要と準備
3.	SAS コントローラカードに基づき、システムを RAID 設定または非 RAID 構成用にセットアップします。	Sun Fire X4250 は、2 種類の SAS コントローラカードをサポートしています。RAID 設定は、カードごとに異なります。	第 2 章 RAID の構成
4.	『Sun Fire X4250 サーバーご使用にあたって』を見直します。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X4250 サーバーご使用にあたって』
5.	Solaris OS をインストールします。	インストール方法を選択して、インストールに関する指示を見つけます。	「OS のインストール方法」(17 ページ)
6.	Tools and Drivers CD からサーバー固有のドライバをインストールします。	Solaris 10 OS を Sun Fire X4250 サーバーで実行するために必要なサーバー固有のドライバをインストールします。	「サーバー固有のドライバのインストール」(26 ページ)
7.	必要に応じてパッチをインストールします。	パッチは、次の場所にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。 http://www.sunsolve.sun.com	『Sun Fire X4250 サーバーご使用にあたって』

OS のインストール方法

この節では、Sun Fire X4250 サーバーに Solaris OS をインストールするための 3 つの方法を詳しく紹介します。各方法の説明については、「OS のインストール方法の選択」(7 ページ)を参照してください。

インストールには、次の方法があります。

方法	節/手順
CD/DVD メディアからインストールする。	<ul style="list-style-type: none">• 「CD/DVD メディアおよびモニターを使用したダイレクトインストール」(17 ページ)-または-• 「CD/DVD メディアおよびシリアルポートを使用したダイレクトインストール」(18 ページ)
PXE を使用してネットワークからインストールする。	<ul style="list-style-type: none">• 「JumpStart ネットワークインストールを使用したインストール」(20 ページ)
シリアルコンソールからインストールする。	<ul style="list-style-type: none">• 「シリアルコンソールを使用したインストール」(21 ページ)
ローカルコンソールまたは RKVMS からインストールする。	<ul style="list-style-type: none">• 「ローカルコンソールを使用したインストール」(23 ページ)
KVMS over IP を使用してインストールする。	<ul style="list-style-type: none">• 「仮想 CD/DVD を使用したりモートコンソールでのインストール」(24 ページ)

注 - Solaris OS には、広域ネットワーク (WAN) を経由したブートなど、追加のインストールプログラムが用意されていますが、Sun Fire X4250 サーバーでは、本書に記載された方法のみがサポートされています。

Solaris 10 OS のその他のドキュメントは、<http://docs.sun.com/> から入手できます。

CD/DVD メディアおよびモニターを使用したダイレクトインストール

この方法では、Sun Fire X4250 ビデオポートに接続されている CD/DVD メディアおよびモニターを使用してインストールを行います。

▼ CD/DVD メディアおよびモニターを使用して ダイレクトインストールを行う

1. Solaris 10 OS の CD または DVD メディアを CD/DVD ドライブに挿入します。
2. サーバーの電源をオンにします。
システムが Solaris 10 OS CD/DVD からブートします。
3. インストールウィザードに従ってインストールを完了します。

CD/DVD メディアおよびシリアルポートを使用した ダイレクトインストール

ここでは、システム出力をシリアルポートにリダイレクトし、CD/DVD メディアを使用したダイレクトインストールにより Solaris 10 8/07 OS をインストールする方法について説明します。

注 – インストールが完了するまで、SSH の使用や、`start /SP/AgentInfo/Console` の実行はできません。

▼ CD/DVD メディアおよびシリアルポートを使用して ダイレクトインストールを行う

1. 端末、または端末エミュレーションソフトウェアを実行しているラップトップをシリアルポートに直接接続します。
シリアル接続を使った ILOM への接続については、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』を参照してください。
次の端末設定を使用します。
 - 8, N, 1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボーレート
 - ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)
2. Enter キーを押します。
 - a. CLI にログインします。
CLI プロンプトが表示されます。
 - b. CLI プロンプトに次のコマンドを入力します。
start /SP/console

3. システムをブートし、F2 (リモートキーボード上では F4) を押して BIOS セットアップユーティリティに切り替えます。
4. 右向き矢印キーを使用して「Server (サーバー)」タブに移動します。
左および右向き矢印キーを使用して「BIOS Setup Utility (BIOS セットアップユーティリティ)」メニュータブにアクセスできます。
5. 下向き矢印キーを使用して「Remote Access Configuration (リモートアクセス構成)」オプションを強調表示し、Enter キーを押します。
「Configure Remote Access type and parameters (リモートアクセスタイプとパラメータの構成)」サブメニューの画面が表示されます。
6. 下向き矢印キーを使用して「External Serial Port (外部シリアルポート)」オプションを強調表示します。
7. - および + キーを使用して、外部シリアルポートの設定を SP からシステムに変更します。
8. 変更を保存して BIOS セットアップユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。
システムプロセッサ出力がシリアルポートに表示されます。
9. Solaris CD/DVD メディアを挿入します。
インストールプロセスが始まり、Solaris OS の GRUB メニューが表示されます。
10. Solaris OS をインストールするには、GRUB メニューの「ttb」を選択します。
11. SSH を使用して SP にリモートアクセスし、Solaris OS を管理する場合は、`start /SP/console` コマンドを使用し、次の手順に従います。
 - a. Solaris OS がインストールされたら、root (スーパーユーザー) としてサーバーにログインします。
 - b. 次のファイルを編集します。
 - i. `/boot/solaris/bootenv.rc` ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
setprop console 'ttya'
setprop ttyb-mode 9600,8,n,1,-
```
 - ii. `/boot/grub/menu.lst` ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
kernel /platform/i86pc/multiboot -B console=ttya
```
12. 次のコマンドで、システムをリブートします。

```
reboot -- -r
```
13. F2 を押します。

14. 「Server (サーバー)」 タブの 「Remote Access Configuration (リモートアクセス構成)」 に移動します。
15. 設定を 「System (システム)」 から 「BMC」 に変更します。
16. 変更を保存して BIOS セットアップユーティリティを終了します。
これで、BMC 出力がシリアルポートにリダイレクトされます。
17. ILOM にログインし、次のコマンドを入力します。
-> `start /SP/console`

JumpStart ネットワークインストールを使用したインストール

JumpStart は、ネットワーク上で OS をブートおよびインストールできる Solaris OS インストールツールです。インストールサーバーとして使用するシステムには CD/DVD ドライブが搭載されていて、サイトのネットワークおよびネームサービスの一部である必要があります。ネームサービスを使用する場合、サーバーは NIS、NIS+、DNS、または LDAP などのネームサービスをすでに使用している必要があります。ネームサービスを使用しない場合、サイトのポリシーに従って、このサーバーについての情報を配信してください。

注 – ネットワークインストールのセットアップおよび構成の基本的な手順については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504> を参照してください。

▼ JumpStart ネットワークインストールを使用してインストールする

1. インストールサーバーとするシステムで、`root` (スーパーユーザー) としてログインします。
2. Solaris 10 インストールのメディアをサーバーの CD/DVD ドライブに挿入します。
3. 端末ウィンドウを開きます。
端末ウィンドウにシステムプロンプトが表示されたら、この手順で紹介されているコマンドを入力します。
4. CD イメージ用のディレクトリを作成します。次のコマンドを入力します。
`# mkdir -p install_dir_path`
`install_dir_path` は、CD イメージをコピーするディレクトリです。

5. マウントしたディスクで、Tools ディレクトリに移動します。次のコマンドを入力します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Tools
```

6. ドライブにあるイメージをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。次のコマンドを入力します。

```
# ./setup_install_server install_dir_path
```

install_dir_path は、CD イメージをコピーするディレクトリです。

注 - `setup_install_server` コマンドを実行すると、Solaris 10 ソフトウェアディスクイメージに使用できる十分なディスク容量があるかどうかが表示されます。使用できるディスク容量を確認するには、`df -k1` コマンドを使用します。

7. ルートディレクトリ (/) に移動します。次のコマンドを入力します。

```
# cd /
```

8. Solaris 10 OS インストールメディアを取り出します。

9. 「シリアルコンソールを使用したインストール」(21 ページ) または 「ローカルコンソールを使用したインストール」(23 ページ) の指示に従って作業を続けます。

シリアルコンソールを使用したインストール

この方法は、インストールをシリアルポートに出力する場合のみ必要です。

注 - これらの手順は、インストール出力のみを対象としたものです。インストールの後、システム出力をシリアルポートから出力させる場合は、[付録 A](#) の手順に従うか、これらの手順を実行する終了スクリプトを作成する必要があります。

インストールサーバーとして使用するシステムには CD/DVD ドライブが搭載されていて、サイトのネットワークおよびネームサービスの一部である必要があります。ネームサービスを使用する場合、システムは NIS、NIS+、DNS、または LDAP などのネームサービスをすでに使用している必要があります。ネームサービスを使用しない場合、サイトのポリシーに従って、このシステムについての情報を配信してください。

▼ シリアルコンソールを使用してインストールする

1. インストールサーバーとするシステムで、`root` (スーパーユーザー) としてログインします。

2. Solaris 10 (またはそれ以降のバージョン) のメディアをサーバーの CD/DVD ドライブに挿入します。

3. CD イメージ用のディレクトリを作成します。次のコマンドを入力します。

```
# mkdir -p install_dir_path
```

`install_dir_path` は、CD イメージをコピーするディレクトリです。

4. マウントしたディスクで、`Tools` ディレクトリに移動します。次のコマンドを入力します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Tools
```

5. ドライブにあるイメージをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。次のコマンドを入力します。

```
# ./setup_install_server install_dir_path
```

`install_dir_path` は、CD イメージをコピーするディレクトリです。

注 - `setup_install_server` コマンドは、Solaris 10 ソフトウェアディスクイメージに使用できる十分なディスク容量があるかどうかを示します。使用できるディスク容量を確認するには、`df -k1` コマンドを使用します。

6. ルートディレクトリ (`/`) に移動します。次のコマンドを入力します。

```
# cd /
```

7. Solaris 10 メディアを取り出します。

8. `setup_install_server` で作成したネットワークインストールイメージのミニルートにあるファイルを編集します。

x86 用 Solaris 10 のミニルートを編集するには、サーバーで x86 リリース用 Solaris 10 (またはそれ以降) を実行している必要があります。

- a. インストールサーバーで x86 リリース用 Solaris 10 を実行していない場合、x86 リリース用 Solaris 10 を実行している、ネットワーク上の別のシステムにスーパーユーザーとしてログインしてください。

インストールサーバーで x86 リリース用 Solaris 10 を実行している場合、手順 b に進みます。

x86 リリース用の Solaris 10 を実行している新しいサーバーを使用する必要がある場合、次の手順を完了します。

- i. 手順 5 で作成したインストールイメージの **Tools** ディレクトリに移動します。次のコマンドを入力します。

```
# cd install_server_path/install_dir_path/Solaris_10/Tools
```

install_server_path は、`/net/installserver-1` のような、ネットワーク上のインストールサーバーシステムへのパスです。

install_dir_path は、CD イメージをコピーしたディレクトリです。

- ii. 新しいインストールイメージを作成し、x86 リリース用の **Solaris 10** を実行しているシステムに配置します。次のコマンドを入力します。

```
# ./setup_install_server remote_install_dir_path
```

remote_install_dir_path は、新しいインストールイメージを作成する Solaris 10 x86 システムでのパスです。

このコマンドでは、Solaris 10 x86 システムに一時インストールイメージを作成して、このイメージにパッチを適用できるようにします。

- b. サーバーファイルを変更してシリアルコンソールのリダイレクトを可能にします。

/destination_dir/boot/solaris/bootenv.rc ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
setprop input-device ttyb
setprop output-device ttyb
setprop console ttyb
setprop ttyb-mode 115200,8,n,1,-
```

PPP

9. 次のコマンドを実行します。

```
# add_install_client -B console=tttya, input-device=tttya,\
output-device=tttya
```

インストール出力がシリアルポートに出力されます。

10. Solaris 10 OS をインストールします。

ローカルコンソールを使用したインストール

このインストール方法では、サーバー出力をローカルコンソールに送るか、ローカルの CD/DVD ドライブを使用する場合はリモートコンソール (RVKM) に送ります。手順については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504> を参照してください。

注 – リモートインストールを行う前に、ILOM の Web ベースのインタフェース (WebGUI) を使ってセッションタイムアウト機能を無効にします。

仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでのインストール

この方法では、Integrated Lights Out Manager (ILOM) リモートコンソールアプリケーションとネットワーク接続されたリモートサーバーを使用して、Sun Fire X4250 サーバーに OS をインストールします。リモートシステム (仮想 CDROM) の CD/DVD ドライブを使用して OS メディアにアクセスします。Sun Fire X4250 サーバーの出力は、リモートシステム (リモートコンソール) に表示されます。

ILOM のリモートコンソールアプリケーションの詳細は、Sun Fire X4250 サーバー ILOM のドキュメントを参照してください。

開始前のご注意

リモートコンソールを使用したインストールの要件は次のとおりです。

- ネットワークに接続されたリモートサーバー
- リモートシステムにインストールされた Internet Explorer、Mozilla または Firefox のブラウザ
- リモートサーバーに接続された CD または DVD ドライブ
- 選択した OS をインストールするためのメディア
- 『Sun Fire X4250 サーバー設置マニュアル』に従ってセットアップされた Sun Fire X4250 サーバーの SP
- リモートサーバーに **root** または管理者特権のあるユーザーとしてログインする必要があります。

▼ 仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでのインストールを行う

1. リモートシステムで、ブラウザを開き、OS をインストールする Sun Fire X4250 サーバーのサービスプロセッサの IP アドレスを入力します。
ILOM のログイン画面が表示されます。
2. 管理者権限のあるユーザ名とパスワードを入力します。
ILOM のメイン画面が表示されます。
3. セッションタイムアウトを無効にします。
 - a. メインメニューで、「System Information (システム情報)」タブをクリックし、「Session Time-Out (セッションタイムアウト)」サブメニュータブをクリックします。
「Session Time-Out (セッションタイムアウト)」画面が表示されます。

- b. 15 分、30 分、1 時間、または 3 時間の中から選択し、「Apply (適用)」をクリックします。
4. メインメニューで「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックし、「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
- 「Redirection (リダイレクト)」画面が開き、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンが表示されます。
5. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックしてリモートコンソールウィンドウを開きます。
- 画面が開き、「Launch (起動)」ボタンが表示されます。また、現在のホスト名、IP アドレス、およびユーザー名も表示されます。
6. 「Launch (起動)」をクリックします。
7. Sun Fire X4250 サーバーにインストールする OS の CD または DVD を、ローカルの CD または DVD ドライブに挿入します。
8. リモートコンソールウィンドウで、「Storage (ストレージ)」、「Mount devices (マウントデバイス)」の順に選択します。
- デバイス構成ウィンドウが表示されます。

注 – ローカルサーバーに CD/DVD ドライブが搭載されている場合は、CD/DVD ドライブにブート可能ディスクが挿入されていないことを確認するか、仮想 CD/DVD ドライブがブートリストでローカル CD/DVD ドライブよりも上位になるように構成します。

9. 「Storage 1 Source (ストレージ 1 のソース)」フィールドで、ドロップダウンリストから、OS のインストールに使用する CD または DVD ドライブを選択します。
10. 「Submit (送信)」をクリックします。
11. OS をインストールする手順は、ローカルの CD または DVD ドライブとモニターを使用する手順と同じです。「[CD/DVD メディアおよびシリアルポートを使用したダイレクトインストール](#)」(18 ページ)を参照してください。

サーバー固有のドライバのインストール

Solaris 10 が動作する Sun Fire X4250 サーバーにサーバー固有のドライバをインストールするには、次の方法を使用します。

- 「ドライバインストールスクリプトの使用」 (26 ページ)
- 「リモートコンソールによるドライバのインストール」 (26 ページ)
- 「サーバーへのドライバのダイレクトインストール」 (26 ページ)

ドライバインストールスクリプトの使用

ドライバのインストールスクリプトは、Sun Fire X4250 サーバーに付属の Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD に収録されています。Tools and Drivers CD の ISO イメージは次のサイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4250/downloads.jsp>

注 - 新しい診断パーティションを作成した場合は、このインストールスクリプトを使用して、作成した診断パーティションをマウントする必要もあります (診断パーティションの作成方法については、『Sun Fire X4250 Server Service Manual (Sun Fire X4250 サーバーサービスマニュアル)』を参照してください)。

リモートコンソールによるドライバのインストール

この方法は、CD/DVD ドライブまたはモニターが接続されていないサーバーにドライバをインストールする場合に使用します。「[仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでのインストール](#)」 (24 ページ) の指示を参照してください。

サーバーへのドライバのダイレクトインストール

サーバーに CD/DVD ドライブが内蔵または接続されている場合は、Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD を使用して直接ドライバをインストールできます。

▼ ドライバをサーバーにダイレクトインストールする

1. root (スーパーユーザー) としてサーバーにログインします。
2. DVD ドライブに **Tools and Drivers CD** を挿入します。
Solaris 10 OS により CD が自動的にマウントされます。
3. 次のコマンドを入力して、/cdrom/cdrom0/drivers/sx86 ディレクトリへ移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/sx86
```
4. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# sh install.sh
```


AST2000 VGA ドライバがインストールされます。
インストールが完了すると、変更を有効にするためにサーバーをリブートするよう求めるプロンプトが表示されます。
5. サーバーをリブートします。
6. Xserver の選択肢が表示されたら、デフォルト設定である `xorg` を選択します。
7. プロンプトが表示されたら、サーバーのネットワーク情報を入力します。

RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール

お使いのサーバーに Sun StorageTek RAID コントローラカードが装備されている場合は、「[ドライバをサーバーにダイレクトインストールする](#)」(27 ページ) の手順に従ってください。LSI の RAID 管理ソフトウェアは、Solaris OS をサポートしていません。お使いのサーバーに LSI SAS3081E-R コントローラカードが搭載されている場合は、コントローラカードの BIOS を使って RAID を管理してください。

装着されている RAID コントロールカードのユーザーガイドおよび RAID 関連ドキュメントは、次のサイトのサーバーのドキュメントコレクションで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4250~sf-hba#hic>

注 – 次の作業は、Sun StorageTek RAID コントローラカードを使用している場合にのみ行います。

▼ Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティー ソフトウェアをインストールする

1. DVD ドライブに Tools and Drivers CD を挿入します。
2. 次のコマンドを使用して /RAIDmgmt/SunStorageTEK/Solaris ディレクトリ
に移動します。
`# cd /cdrom/cdrom0/RAIDmgmt/solaris`
3. 次のコマンドを入力します。
`# pkadd -d StorMan.ds`

Linux オペレーティングシステムのインストール

この章では、Sun Fire X4250 サーバーに Red Hat Enterprise Linux (RHEL) および SUSE Linux Enterprise System (SLES) オペレーティングシステムとシステム固有のドライバをインストールする方法について説明します。

この章には次の節があります。

- 「オペレーティングシステムのインストール」 (29 ページ)
- 「システム固有ドライバのインストール」 (34 ページ)
- 「アップデートユーティリティーの実行」 (37 ページ)

オペレーティングシステムのインストール

本書には、Linux OS のインストールプロセスの概要を示すのみで、Linux OS をインストールする際の総合的な指示は記載されていません。この節では、サポートされているバージョンの Linux を Sun Fire X4250 サーバーにインストールする際のインストール方法および作業を示します。

この節では、次の項目について説明します。

- 「OS インストールの概要」 (30 ページ)
- 「OS のインストール方法」 (31 ページ)

OS インストールの概要

次に、Linux OS のフレッシュインストールを実行している場合のドライバのインストール手順を示します。プリインストールされた OS を使用している場合は、ドライバを再インストールする必要はありません。

OS をインストールする場合の作業マップについては、表 4-1 を参照してください。

表 4-1 OS をインストールする場合の作業マップ

手順	タスク	インストール作業	指示書
1.	サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サーバプロセッサを構成します。	『Sun Fire X4250 サーバー設置マニュアル』
2.	OS インストールに向けてシステムを準備します。	ディスプレイの環境を設定します。必要に応じてプライマリブートディスクを消去します。	第 1 章「オペレーティングシステムのインストールの概要と準備」
3.	SAS コントローラカードに基づき、システムを RAID 構成または非 RAID 構成用にセットアップします。	Sun Fire X4250 は、2 種類の SAS コントローラカードをサポートしています。RAID 設定は、カードごとに異なります。	第 2 章「RAID の構成」
4.	『Sun Fire X4250 サーバーご使用にあたって』を見直します。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X4250 サーバーご使用にあたって』
5.	Linux OS をインストールします。	インストール方法を選択して、インストールに関する指示を見つけます。	「OS のインストール方法」(31 ページ)
6.	Tools and Drivers CD からシステム固有ドライバをインストールします。	Linux OS を Sun Fire X4250 サーバーで実行するために必要なシステム固有のドライバをインストールします。	「システム固有ドライバのインストール」(34 ページ)
7.	up2date または SUSEWatcher ユーティリティーを実行します。	パッチは、次の場所にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。 http://www.sunsolve.sun.com	「RHEL OS 用の up2date ユーティリティーの実行」(37 ページ)または「SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティーの実行」(38 ページ)

OS のインストール方法

次に示すインストール方法のリストを参照して、実行するインストール形式およびインストールに使用する情報ソースを決定してください。

方法	節/手順
Sun Installation Assistant (SIA) を使用する。	「 Sun Installation Assistant を使用した Linux のインストール 」 (31 ページ)
CD/DVD メディアからインストールする。	「 CD/DVD メディアを使用したインストール 」 (31 ページ)
ネットワークからインストールする。	「 PXE を使用したインストール 」 (32 ページ)
リモートサーバーからインストールする。	「 仮想 CD/DVD を使用したりモートコンソールでのインストール 」 (32 ページ)

各方法の説明については、「[OS のインストール方法の選択](#)」 (7 ページ) を参照してください。

Sun Installation Assistant を使用した Linux のインストール

Sun Installation Assistant (SIA) は、サーバーに Linux および Windows のサポートされているバージョンをインストールする際に役立つ、便利なフロントエンドアプリケーションです。オペレーティングシステムに付属している標準インストールユーティリティと手順を補足するもので、それに代わるものではありません。SIA の詳細は、次のサイトで『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』を参照してください。

<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>

CD/DVD メディアを使用したインストール

インストールする OS のドキュメントで基本インストールに関する指示を参照してください。

- 『*Red Hat Enterprise Linux Installation Guide for the x86, Itanium, and AMD64 Architectures* (Red Hat Enterprise Linux インストールガイド - x86, Itanium, AMD64)』は、次のサイトで入手できます。
<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>
- 『*SUSE Linux Enterprise Server 10 Administration and Installation* (SUSE Linux Enterprise Server 10 管理およびインストール)』は、次のサイトで入手できます。
<http://www.novell.com/documentation/sles10/>

PXE を使用したインストール

インストールする OS のドキュメントでネットワークインストールに関する指示を参照してください。

- 『Red Hat Enterprise Linux Installation Guide for the x86, Itanium, and AMD64 Architectures (Red Hat Enterprise Linux インストールガイド - x86, Itanium, AMD64)』は、次のサイトで入手できます。
<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>
- 『SUSE Linux Enterprise Server 10 Administration and Installation (SUSE Linux Enterprise Server 10 管理およびインストール)』は、次のサイトで入手できます。
<http://www.novell.com/documentation/sles10/>

注 – RHEL 4 を使用して PXE でのインストールを構成する場合は、ギガビット Ethernet ポート、Net 2 および Net 3 を使用します。RHEL 4 のドライバは、Net 0 および Net 1 をサポートしていません。

仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでのインストール

この方法では、ネットワーク接続されたリモートシステムを使用して Sun Fire X4250 サーバーに OS をインストールします。リモートシステムの CD/DVD (仮想 CD-ROM) ドライブを使用して OS メディアにアクセスします。Sun Fire X4250 サーバーの出力は、リモートシステム (リモートコンソール) に表示されます。

Integrated Lights Out Manager (ILOM) でリモートコンソールを使用する詳細については、『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

注 – この手順は、ユーザーが ILOM の WebGUI の管理に慣れていることを前提としています。詳しくは、『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

リモートコンソールを使用したインストールの要件は次のとおりです。

- ネットワークに接続されたリモートシステム
- リモートシステムにインストールされた Internet Explorer、Mozilla または Firefox のブラウザ
- リモートシステムに接続された CD または DVD ドライブ
- 選択した OS をインストールするためのメディア
- 『Sun Fire X4250 サーバー設置マニュアル』に従ってセットアップされた Sun Fire X4250 サーバーの SP
- ユーザーは、リモートサーバーに **root** としてログインする必要があります。

▼ 仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでインストールを行う

1. リモートシステムで、ブラウザを開き、OS をインストールする Sun Fire X4250 サーバーの ILOM SP の IP アドレスを入力します。
ILOM のログイン画面が表示されます。
2. 管理者権限を持つアカウントのユーザー名とパスワードを入力し、「Login (ログイン)」をクリックします。
ILOM のメインメニュー画面が表示されます。
3. セッションタイムアウトを設定します。
 - a. メインメニューの「System Information (システム情報)」タブをクリックします。
「System Information (システム情報)」サブメニュータブが表示されます。
 - b. 「Session Time-Out (セッションタイムアウト)」サブメニュータブをクリックします。
「Session Time-Out (セッションタイムアウト)」画面が表示されます。
 - c. 15 分、30 分、1 時間、または 3 時間の中から選択し、「Apply (適用)」をクリックします。
4. メインメニューの「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
「Remote Control (リモートコントロール)」画面が表示されます。
5. 「Redirection (リダイレクト)」タブを選択します。
「Redirection (リダイレクト)」画面が開き、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンが表示されます。
6. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックします。
画面が開き、「Launch (起動)」ボタンが表示されます。また、現在のホスト名、IP アドレス、およびユーザー名も表示されます。
7. 「Launch (起動)」をクリックします。
8. Sun Fire X4250 サーバーにインストールする OS の CD または DVD を、ローカルの CD または DVD ドライブに挿入します。
9. リモートコンソール画面で、「Storage (ストレージ)」、「Mount devices (マウントデバイス)」の順に選択します。
デバイス構成画面が表示されます。

10. 「Storage 1 Source (ストレージ 1 のソース)」 ドロップダウンリストから、OS のインストールに使用する CD または DVD ドライブを選択します。
11. 「Submit (送信)」 をクリックします。
12. システムをリブートします。
システムが仮想 CD からブートします。

システム固有ドライバのインストール

Sun Fire X4250 サーバーにシステム固有のドライバをインストールするには、次の方法を使用できます。

- DVD/CD ドライブまたはモニターが取り付けられていないシステムの場合は、「[KVMS Over IP を使用したドライバのインストール](#)」(35 ページ) を参照してください。
- DVD/CD ドライブおよびモニターが取り付けられているシステムの場合は、「[Sun Fire X4250 サーバーへのドライバのダイレクトインストール](#)」(35 ページ) を参照してください。

ドライバインストールスクリプト

Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD に、ドライバのインストールスクリプトが収録されています。この CD は サーバーに付属しています。また、Tools and Drivers CD の ISO イメージを

<http://www.sun.com/servers/x64/x4250/downloads.jsp> からダウンロードすることもできます。

注 – 新しい診断パーティションを作成した場合は、このインストールスクリプトを使用して、作成した診断パーティションをマウントする必要もあります (診断パーティションの作成方法については、『*Sun Fire X4250 Server Service Manual* (Sun Fire X4250 サーバーサービスマニュアル)』を参照してください)。

KVMS Over IP を使用したドライバのインストール

詳細は、「[仮想 CD/DVD を使用したリモートコンソールでのインストール](#)」(32 ページ) または『[Integrated Lights Out Manager 管理ガイド](#)』を参照してください。

注 – リモートインストールを行う前に、ILOM の Web ベースのインタフェース (WebGUI) を使ってセッションタイムアウト機能を無効にします。それにより、インストールプロセスが中断なく進むようになります。

Sun Fire X4250 サーバーへのドライバのダイレクトインストール

サーバーに CD/DVD ドライブがある場合は、Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD を使用して直接ドライバをインストールできます。

Linux OS を実行しているときに、サーバーに直接ビデオドライバをインストールして、診断パーティションをマウントするには、次の手順に従います。

1. Sun Fire X4250 サーバーに root (スーパーユーザー) としてログインします。
2. CD/DVD ドライブに Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD を挿入して、次のように入力します。

```
# cd /mountpoint/drivers/linux/operating_system
```

/mountpoint は CD がマウントされるディレクトリです。

operating_system はサーバーにインストールされている Linux の種類 (red_hat または suse) です。

- CD が自動マウントされなかった場合、このディレクトリは存在しません。その場合、[手順 3](#) および [手順 4](#) の操作を行い、手動で CD をマウントしてこのディレクトリへ移動する必要があります。
 - *operating_system* ディレクトリへ移動できた場合には、[手順 5](#) へ進みます。
3. CD が自動マウントされない場合、端末ウィンドウを開き、次のコマンドを入力して CD をマウントします。

```
# mount /dev/cdrom /mountpoint
```

/mountpoint は、OS と光学式ドライブの種類に応じたマウント位置です。

次に例を示します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/dvdrom
```

4. `/mountpoint/drivers/linux/operating_system` ディレクトリへ移動します。
`/mountpoint` は CD がマウントされるディレクトリです。
`operating_system` はサーバーにインストールされている Linux の種類 (`red_hat` または `suse`) です。

次に例を示します。

```
# cd /mnt/dvdrom/drivers/linux/red_hat
```

注 – `install.sh` スクリプトによって Sun SunStorage コントローラカードが検出された場合、自動的に最新のドライバにアップデートされます。

5. ドライバのインストールが完了したら、CD を取り出します。
6. サーバーをリブートします。

Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティー ソフトウェアのインストール

お使いのシステムコントローラカードに応じて次の 2 つの手順のいずれかを使用し、RAID 管理ユーティリティーソフトウェアをインストールします。

注 – 次の作業は、Sun StorageTek RAID コントローラカードを使用している場合にのみ行います。

▼ Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティー ソフトウェアをインストールする

1. DVD ドライブに Tools and Drivers CD を挿入します。
2. 次のコマンドを使用して
`RAIDmgmt/SunStorageTEK/linux/[32bit|64bit]` ディレクトリに移動します。

```
# cd /RAIDmgmt/StorageTEK/linux/[32bit|64bit]
```
3. 次のコマンドを入力します。

```
# rpm -ivh [32bit|64bit].rpm
```

注 – RHEL5 32 ビット OS で Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティソフトウェアを実行すると、エラーが生じます。この問題を解決するには、`linux/xorg-x11-deprecated-libs-6.8.1-12.FC3.1.i386.rpm` のパッケージを追加してください。

▼ LSI RAID 管理ユーティリティをインストールする

1. サーバーの CD/DVD ドライブに、Tools and Drivers CD を挿入します。
2. 次のコマンドを使用して `/RAIDmgmt/lsi/linux/[32bit|64bit]` ディレクトリに移動し、ディレクトリの内容を表示します。

```
# cd /RAIDmgmt/lsi/linux/[32bit|64bit]
# ls -al
```
3. `.bin` ファイルを実行し、手順に従って RAID 管理ソフトウェアをインストールします。

アップデートユーティリティの実行

インストールした Linux OS に対応する節を参照してください。

- 「RHEL OS 用の `up2date` ユーティリティの実行」 (37 ページ)
- 「SLES OS 用の `SuSEWatcher` ユーティリティの実行」 (38 ページ)

RHEL OS 用の `up2date` ユーティリティの実行

OS をインストールし、Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD からドライバをインストールした後、`up2date` ユーティリティを実行します。

▼ RHEL OS 用の up2date ユーティリティーを実行する

1. サーバーで up2date ユーティリティーをセットアップします。
詳細については、RHEL メディアキットに付属のドキュメントを参照してください。
2. up2date プログラムを実行します。
利用できるパッケージアップデートの節でカーネルパッケージを選択します。

SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティーの実行

OS をインストールし、Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD からドライバをインストールした後、SuSEWatcher ユーティリティーを実行します。

▼ SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティーを実行する

1. サーバーで SuSEWatcher ユーティリティーをセットアップします。
詳細については、SLES9 メディアキットに付属のドキュメントを参照してください。
2. SuSEWatcher プログラムを実行します。
利用できるパッケージアップデートの節でカーネルパッケージを選択します。

Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール

この章では、Windows Server 2003 用のドライバをサーバーにインストールする手順を扱い、次の項目について説明します。

- 「オペレーティングシステムのインストール」(40 ページ)
- 「Windows Update の実行」(44 ページ)
- 「RAID 構成を指定した Windows Server 2003 のインストール」(44 ページ)
- 「ドライバのインストール」(50 ページ)

注 – Windows の RAID ドライバをインストールする場合は、OS のインストールの途中で RAID をインストールする必要があります。

ドライバのインストールスクリプトは、Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD に収録されています。Tools and Drivers CD の ISO イメージは、次のサイトで入手できます。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4250/downloads.jsp>

オペレーティングシステムのインストール

この章には、Windows オペレーティングシステムをインストールする場合の総合的な指示は記載されていません。ここでは、OS のインストールに関連する作業および使用可能なインストール方法のガイドラインを示します。

この節では、次の項目について説明します。

- 「Windows Server 2003 OS インストールの概要」(40 ページ)
- 「Windows Server 2003 OS インストール方法」(41 ページ)

Windows Server 2003 OS インストールの概要

オペレーティングシステムをインストールする場合の作業マップについては、表 5-1 を参照してください。

表 5-1 Windows 2003 OS を初期インストールする場合の作業マップ

手順	タスク	説明	指示書
1.	サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを構成します。	『Sun Fire X4250 サーバー設置マニュアル』
2.	SAS コントローラを特定します。	SAS コントローラに搭載された構成ユーティリティの要件に従ってハードドライブを構成します。	第 1 章および第 2 章
3.	『Sun Fire X4250 サーバーご使用にあたって』を見直します。	このドキュメントには、Windows OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X4250 サーバーご使用にあたって』
4.	Windows OS をインストールします。	インストール方法を選択して、インストールに関する指示を見つけます。	「Windows Server 2003 OS インストール方法」(41 ページ) RAID を使用する場合は、「RAID 構成を指定した Windows Server 2003 のインストール」(44 ページ)を参照してください。
5.	Tools and Drivers CD からシステム固有ドライバをインストールします。	Sun Fire X4250 サーバーで Windows オペレーティングシステムを実行するために必要なシステム固有のドライバをインストールします。	「RAID 構成を指定した Windows Server 2003 のインストール」(44 ページ)および 「ドライバのインストール」(50 ページ)
6.	Windows Update を実行します。	必ず Windows Update を実行して Microsoft Windows の最新機能を入手します。	http://update.microsoft.com/microsoftupdate/

Windows Server 2003 OS インストール方法

次に示すインストール方法のリストを参照して、実行するインストールの種類およびインストールの手順を決定してください。

方法	節/手順
Sun Installation Assistant (SIA) を使用する。	「Sun Installation Assistant を使用した Windows Server 2003 のインストール」 (41 ページ)
CD/DVD メディアからインストールする。	「DVD または CD-ROM メディアを使用した Windows Server 2003 のダイレクトインストール」 (42 ページ)
ネットワークからインストールする。	「RIS を使用した Windows Server 2003 のインストール」 (42 ページ)
リモートサーバーからインストールする。	「仮想 CD-ROM を使用したりリモートコンソールでの Windows Server 2003 のインストール」 (42 ページ)

各方法の説明については、[「OS のインストール方法の選択」](#) (7 ページ) を参照してください。

注 - LSI または Sun StorageTEK SAS カードに取り付けられているディスクを使用して Windows をインストールする場合は、OS のインストールの途中で RAID ドライバをインストールする必要があります。[「RAID 構成を指定した Windows Server 2003 のインストール」](#) (44 ページ) を参照してください。

Sun Installation Assistant を使用した Windows Server 2003 のインストール

Sun Installation Assistant (SIA) は、サーバーに Linux および Windows のサポートされているバージョンをインストールする際に役立つ、便利なフロントエンドアプリケーションです。オペレーティングシステムに付属している標準インストールユーティリティと手順を補足するもので、それに代わるものではありません。SIA の詳細は、次のサイトで『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』を参照してください。

<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>

DVD または CD-ROM メディアを使用した Windows Server 2003 のダイレクトインストール

基本的なインストール手順については、次のサイトで『Installing Windows Server 2003 R2 (Windows Server 2003 R2 のインストール)』を参照してください。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/Library/>

RIS を使用した Windows Server 2003 のインストール

付録 B の RIS インストールに関する指示を参照してください。

仮想 CD-ROM を使用したリモートコンソールでの Windows Server 2003 のインストール

この方法では、ネットワーク接続されたリモートシステムを使用して Sun Fire X4250 サーバーにオペレーティングシステムをインストールします。リモートシステムの CD または DVD ドライブ (仮想 CD-ROM) を使用してオペレーティングシステムメディアにアクセスします。Sun Fire X4250 サーバーの出力は、リモートシステム (リモートコンソール) に表示されます。

Integrated Lights Out Manager (ILOM) でリモートコンソールを使用する詳細については、『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

注 - この手順は、ユーザーが ILOM の Web GUI の管理に慣れていることを前提としています。詳しくは、『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

開始前のご注意

リモートコンソールの要件

- ネットワークに接続されたリモートシステム
- リモートシステムにインストールされた Internet Explorer、Mozilla または Firefox のブラウザ
- リモートシステムに接続された CD または DVD ドライブ
- 選択したオペレーティングシステムをインストールするためのメディア
- 『Sun Fire X4250 サーバー設置マニュアル』に従ってセットアップされた Sun Fire X4250 サーバーの SP

▼ 仮想 CD-ROM を使用したリモート KVM Over IP で Windows Server 2003 のインストールを行う

1. リモートシステムで、ブラウザを開き、オペレーティングシステムをインストールする Sun Fire X4250 サーバーの ILOM SP の IP アドレスを入力します。
2. ログイン画面で管理者権限のあるアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
ILOM のメインメニュー画面が表示されます。
3. セッションタイムアウトを設定します。
 - a. メインメニューの「System Information (システム情報)」タブをクリックします。
「System Information (システム情報)」サブメニュータブが表示されます。
 - b. 「Session Time-Out (セッションタイムアウト)」サブメニュータブをクリックします。
「Session Time-Out (セッションタイムアウト)」画面が表示されます。
 - c. 15 分、30 分、1 時間、または 3 時間の中から選択し、「Apply (適用)」をクリックします。
4. メインメニューの「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
「Remote Control (リモートコントロール)」画面が表示されます。
5. 「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
「Redirection (リダイレクト)」画面が開き、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンが表示されます。
6. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックします。
画面が開き、「Launch (起動)」ボタンが表示されます。また、現在のホスト名、IP アドレス、およびユーザー名も表示されます。
7. 「Launch (起動)」をクリックします。
8. Sun Fire X4250 サーバーにインストールするオペレーティングシステムの CD または DVD を、ローカルの CD または DVD ドライブに挿入します。
9. リモートコンソールウィンドウで、「Storage (ストレージ)」、「Mount Devices (マウントデバイス)」の順に選択します。
デバイス構成ウィンドウが表示されます。
10. 「Storage 1 Source (ストレージ 1 のソース)」ドロップダウンリストから、オペレーティングシステムのインストールに使用する CD または DVD ドライブを選択します。
11. 「Submit (送信)」をクリックします。
12. システムをリブートします。
システムが仮想 CD からブートします。

Windows Update の実行

Windows Update を実行するには、次に示す Windows Update ダウンロードサイトの手順に従います。<http://windowsupdate.microsoft.com>

RAID 構成を指定した Windows Server 2003 のインストール

Sun Fire X4250 サーバー Tools and Drivers CD には、次のドライバが含まれています。

- Intel NIC ドライバ
- Intel Chipset ドライバ
- AST2000 ビデオドライバ
- Sun StorageTek SAS Internal RAID HBA ドライバ (Sun StorageTek RAID)
- LSI SAS3081E-R RAID ドライバ
- TPM ドライバ

サーバーは、Sun StorageTek SAS Internal RAID HBA と LSI SAS3081E の 2 つの RAID カードをサポートしています。また、RAID 構成を指定して、Windows Server 2003 をインストールするには、次の方法のいずれかを使用することができます。

方法	節/手順
Solaris または Linux で作成した Reburn CD を使って Windows Server 2003 をインストールする。	「Sun StorageTek または LSI ドライバを含む Reburn CD を使用した Windows Server 2003 のインストール」 (45 ページ)
ドライバのフロッピーディスクを使用して Windows Server 2003 をインストールする。	「ドライバのフロッピーディスクを使用した Windows 2003 のインストール」 (47 ページ)

Sun StorageTek または LSI ドライバを含む Reburn CD を使用した Windows Server 2003 の インストール

Tools and Drivers CD には、必要な Sun StorageTek および LSI ドライバを含む新しい Windows Server 2003 CD を作成するためのスクリプトが収録されています。新しい CD が作成できたら、その CD から起動して Windows Server 2003 を通常の方法でインストールできます。ドライバは、自動的にインストールされます。

注 – Reburn CD を使用すれば、USB フロッピーディスクドライブを接続して Sun StorageTek ドライバをインストールする手間を省くことができます。

2003 Reburn スクリプトに関する固有および最新の情報については、Tools and Drivers CD の `/utilities/reburn` にあるスクリプトの冒頭に記載されている説明を参照してください。

開始前のご注意

次のものがが必要です。

- x86 プラットフォーム用 Solaris オペレーティングシステム、Solaris オペレーティングシステム (SPARC® Platform Edition)、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 のいずれかが動作しているシステム
- CD パーナーおよび空の CD-R または CD-RW
- Windows Server 2003 CD (製品版のみ、OEM 版は不可)
- Sun Fire X4250 Server の最新の Tools and Drivers CD

▼ Sun StorageTek または LSI ドライバを含む Reburn CD を使用して Windows Server 2003 を インストールする

1. Solaris x86、Solaris OS (SPARC Platform Edition)、RHEL 5、または SLES 10 が動作するシステムで、Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD を CD または DVD ドライブに挿入します。
2. root (スーパーユーザー) としてログインします。

3. 1.2G バイト以上の容量を持つ一時ディレクトリを作成します。

次に例を示します。

```
# mkdir /files
```

4. 2003REBURN_*version*.zip ファイルをその一時ディレクトリにコピーします。

version は、2003Reburnのバージョン番号です。

次に例を示します。

```
# cp /utilities/reburn/2003reburn_1.0.zip /files
```

5. Tools and Drivers CD を取り出して、製品版の Windows 2003 32 ビット CD を挿入します。

6. [手順 4](#) で .zip ファイルをコピーしたディレクトリに移動し、2003Reburn_*version*.zip ファイルを解凍します。

次に例を示します。

```
# unzip -q 2003Reburn_1.0.zip
```

7. 2003Reburn スクリプトを実行します。

次に例を示します。

```
# ./files/2003Reburn -b
```

注 – お使いのシステムに CD バーナーがない場合は、`-b` オプションを付けずにコマンドを実行してください。ISO イメージが作成されたら、そのイメージを CD バーナーのあるシステムに保存します。

スクリプトは、現在のディレクトリにあるはずのドライバファイルを表示します。4 つのドライバファイルを一時ディレクトリにダウンロードし終わると、スクリプトにより新しい ISO イメージが作成され、システムに CD バーナーがあれば、自動的にその ISO イメージが CD に書き込まれます。

8. CD が作成されたら、その CD を使用して、Windows Server 2003 を Sun Fire X4250 サーバーにインストールします。

- OS のインストールが完了したら、「[ドライバのインストール](#)」(50 ページ)に従って、ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールします。

注 – Windows Server 2003 Reburn CD を使用したインストールでは、NIC を組み合わせることはできません。NIC を組み合わせるには、Tools and Drivers CD の `/drivers/windows/intelNIC/` にある OS 固有の *.bat ファイル、`windows_1a32_install.bat` または `windows_x64_install.bat` を実行します。

ドライバのフロッピーディスクを使用した Windows 2003 のインストール

Sun StorageTek または LSI ドライバを含む Windows Server 2003 をインストールする前に、[第 2 章](#)の説明に従ってディスクを構成する必要があります。ディスクを構成したら、サーバーに搭載されているコントローラカードの種類に応じた手順でドライバのフロッピーディスクを作成し、OS をインストールします。

コントローラカードのドライバ	節/手順
Sun StorageTek のドライバのフロッピーディスクを作成し、OS をインストールする。	「Sun StorageTek ドライバのフロッピーディスクを使用した Windows Server 2003 のインストール」 (47 ページ)
LSI のドライバのフロッピーディスクを作成し、OS をインストールする。	「LSI SAS3081E-R ドライバを含む Windows Server 2003 のインストール」 (48 ページ)

Sun StorageTek ドライバのフロッピーディスクを使用した Windows Server 2003 のインストール

ここでは、Sun StorageTek ドライバのフロッピーディスクを使用して Windows Server 2003 OS をインストールする方法について説明します。

注 – この手順では、Windows Server 2003 32 ビット版 (または 64 ビット版) での使用が許可されている USB 接続のフロッピーディスクドライブが必要です。

▼ Sun StorageTek ドライバのフロッピーディスクを使用して Windows Server 2003 をインストールする

1. **Tools and Drivers CD** にあるドライバをフロッピーディスクドライブにコピーします。
ドライバのファイルは、次のディレクトリにあります。
`/drivers/windows/RAID/StorageTek/[2003_32|2003_64]`
2. **USB フロッピーディスクドライブ** を **Sun Fire X4250** サーバーに取り付けます。
3. 作成したインストール CD を **CD/DVD ドライブ** に挿入します。
4. **F6** キーを押して、サードパーティー製 **RAID ドライバ** のインストールを開始します。

5. S キーを押して追加ドライバのインストールを指定し、フロッピーディスクを挿入します。
6. ADAPTEC SAS/SATA II RAID コントローラを選択し、Enter キーを押します。情報メッセージが表示されます。
7. Enter キーを押します。
8. Enter キーを押して、Windows 2003 のインストールを続行します。
9. OS のインストールが完了したら、「[ドライバのインストール](#)」(50 ページ)に従って、ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールします。

LSI SAS3081E-R ドライバを含む Windows Server 2003 のインストール

この節では、LSI SAS3081E-R RAID カードが搭載されている Sun Fire 4250 サーバーに Windows Server 2003 をインストールする方法について説明します。

LSI ドライバを含む Windows Server 2003 をインストールする前に、[第 2 章](#)に従って BIOS を構成する必要があります。BIOS を構成したら、「[LSI 3081E-R RAID ドライバの起動ディスクの作成](#)」に従って起動ディスクを作成し、その起動ディスクを使って OS をインストールすることができます。

LSI 3081E-R RAID ドライバの起動ディスクの作成

ここでは、Windows Server 2003 をインストールする際の準備として LSI ドライバの起動ディスクを作成する方法を説明します。

注 – この手順では、USB フロッピーディスクドライブが必要です。

▼ LSI SAS3081E-R RAID ドライバの起動ディスクを作成する

1. 次のコマンドで、Tools and Drivers CD にあるドライバをフロッピーディスクドライブにコピーします。
`# /drivers/windows/boot/RAID/lcsi/[32bit|64bit]/ USB floppy`
2. USB フロッピーディスクドライブを Sun Fire X4250 サーバーに取り付けます。
3. Windows システムで、Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD を挿入します。

4. 空のフロッピーディスクを Windows システムに挿入します。
5. Tools and Drivers CD の sataraid ディレクトリの内容をフロッピーディスクにコピーします。
> **Copy d: \drivers\windows\RAID\LSI\ver a:**
Where *ver* は、32-bit または 64-bit です。

LSI 3081E-R ドライバのフロッピーディスクを使用した Windows Server 2003 のインストール

ここでは、LSI 3081E-R ドライバのフロッピーディスクを使用して Windows Server 2003 OS をインストールする方法について説明します。

▼ LSI 3081E-R ドライバのフロッピーディスクを使用して Windows Server 2003 をインストールする

1. USB フロッピーディスクドライブを Sun Fire X4250 サーバーに取り付けます。
2. 32 ビット版または 64 ビット版の Windows Server 2003 インストール CD を DVD ドライブに挿入します。
3. F6 キーを押して、サードパーティー製 RAID ドライバのインストールを開始します。
4. S キーを押して追加ドライバのインストールを指定し、フロッピーディスクを挿入します。
5. LSI Logic Fusion-MPT SAS ドライバ (Server 2003) を選択し、Enter を押します。
6. Enter キーを押して、Windows Server 2003 のインストールを続行します。
7. OS のインストールが完了したら、「[ドライバのインストール](#)」(50 ページ) に従って、ドライバをインストールします。

ドライバのインストール

次の節では、Tools and Drivers CD からドライバをインストールする方法について説明します。次の手順のいずれかを選択して、ドライバをインストールします。

方法	節/手順
KVMS Over IP を使用してドライバをインストールする。	「リモート KVMS を使用したドライバのインストール」 (50 ページ)
内蔵 DVD を使用してドライバをインストールする。	「Sun Fire X4250 サーバーへのドライバのダイレクトインストール」 (50 ページ)

注 – 2003Reburn オプションを使用してドライバを含む Windows Server 2003 CD を作成した場合、OS のインストール中にドライバがインストールされます。

リモート KVMS を使用したドライバのインストール

詳細は、「[仮想 CD-ROM を使用したリモートコンソールでの Windows Server 2003 のインストール](#)」(42 ページ) または『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

Sun Fire X4250 サーバーへのドライバのダイレクトインストール

サーバーに DVD ドライブが内蔵されている場合は、Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD を使用して直接ドライバをインストールできます。

▼ Sun Fire X4250 サーバーにドライバを直接インストールする

1. DVD ドライブに Sun Fire X4250 サーバーの Tools and Drivers CD を挿入します。
2. チップセットドライバをインストールするには、次の実行可能ファイルをダブルクリックします。

```
d:\drivers\windows\chipset
```

3. Ethernet ドライバをインストールするには、次のいずれかの手順に従います。
 - インストールウィザードを使用してドライバをインストールする場合
 - a. インストールウィザードを使用して Ethernet ドライバをインストールするには、.bat ファイルをダブルクリックし、ウィザードに表示される手順に従います。
 - b. ウィザードの手順を完了したら、**手順 4**に進みます。

-または-
 - Windows のデバイスマネージャを使用してドライバをインストールする場合
 - a. Windows のデバイスマネージャを使用してドライバをインストールするには、「デバイスマネージャ」を開きます。
 - b. 黄色の感嘆符が付いた NIC を右クリックし、「ドライバの更新」を選択します。
 - c. 「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。
 - d. 「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリックします。
 - e. 「参照」をクリックして CD/DVD パス上の NIC ドライバを選択します。

d:\drivers\windows\intelNIC
 - f. 「OK」をクリックします。
 - g. インストールが完了したら、**手順 4**に進みます。
4. TPM ドライバをインストールするには、d:\drivers\windows\tpm の .zip ファイルを解凍します。
 - a. 実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - b. インストールウィザードに従って TPM ドライバをインストールします。
5. AST2000 ディスプレイのドライバをインストールするには、Windows のデバイスマネージャを開いて、次のようにデバイスのドライバを更新します。
 - a. ディスプレイのドライバを右クリックして「ドライバの更新」を選択します。

ハードウェアの更新ウィザードが表示されます。
 - b. 「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。
 - c. 次のダイアログボックスで、「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリックします。
 - d. 「参照」をクリックして、Tools and Drivers CD の次のディレクトリに移動します。

D:\drivers\windows\Display\2003_[32-bit | 64-bit]
 - e. 「OK」をクリックして、「次へ」をクリックします。

AST2000 のドライバがインストールされます。
6. サーバーをリブートします。

Windows Server 2003 用の RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール

Windows Server 2003 の RAID 管理ユーティリティソフトウェアは、Sun StorageTek コントローラカードと LSI SAS3081E-R コントローラカードのどちらに対しても用意されています。この節では、コントローラカード別にユーティリティソフトウェアをインストールする手順を紹介します。

方法	節/手順
Sun StorageTek	「Windows Server 2003 用 Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール」 (52 ページ)
LSI SAS3081E-R	「Windows Server 2003 用 LSI RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール」 (53 ページ)

Windows Server 2003 用 Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール

ここでは、Sun StorageTek RAID コントローラカードが搭載されているサーバーに RAID 管理ユーティリティソフトウェアをインストールする手順について説明します。

▼ Windows Server 2003 用 Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティソフトウェアをインストールする

1. サーバーの CD/DVD ドライブに、Tools and Drivers CD を挿入します。
2. Windows のエクスプローラを使用して、Tools and Drivers CD の RAIDmgmt/StorageTEK/windows ディレクトリに移動します。
3. 実行可能 (.exe) ファイルをダブルクリックして、Sun StorageTek RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストールウィザードを起動します。
4. インストールウィザードに従ってソフトウェアをインストールします。

Windows Server 2003 用 LSI RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストール

ここでは、LSI 3081E-R コントローラカードが搭載されているサーバーに RAID 管理ユーティリティソフトウェアをインストールする手順について説明します。

▼ Windows Server 2003 用に LSI RAID 管理ユーティリティソフトウェアをインストールする

1. サーバーの CD/DVD ドライブに、Tools and Drivers CD を挿入します。
2. Windows のエクスプローラを使用して、Tools and Drivers CD の RAIDmgmt/lsi/windows ディレクトリに移動します。
3. 実行可能 (.exe) ファイルをダブルクリックして、LSI RAID 管理ユーティリティソフトウェアのインストールウィザードを起動します。
4. インストールウィザードに従ってソフトウェアをインストールします。

VMware のインストール

ここでは、VMware ESX Server を Sun Fire X4250 サーバーにインストールする方法について説明します。この章は次の節で構成されています。

- 「VMware について」 (55 ページ)
 - 「ネットワークインタフェースの計画」 (57 ページ)
 - 「CD/DVD からの VMware ESX Server のインストール」 (57 ページ)
 - 「ローカルメディアからの VMware ESX Server のインストール」 (58 ページ)
-

VMware について

VMware ESX Server ソフトウェアは、ローカル CD/DVD ドライブ、リモート CD/DVD ドライブ、またはネットワークからインストールできます。VMware をサーバーにインストールする最も一般的な方法は次のとおりです。

1. VMware の Web サイトからダウンロードして CD/DVD メディアに書き込んだイメージからのインストール。
2. kickstart による自動インストール。Preboot Execution Environment (PXE) ネットワークサーバーに保存されている VMware ソフトウェア (インストールツリー) からインストールします。

VMware 仮想化ソフトウェアの詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.vmware.com/support/pubs>

VMware のインストールと管理ドキュメント

VMware ESX Server ソフトウェアを Sun Fire X4250 サーバーにインストールする前に、次のサイトで VMware ESX Server のインストールに関するドキュメントを参照してください。

http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html

- VMware Infrastructure 3 製品の概要
- クイックスタートガイド
- インストールおよびアップグレードガイド
- 基本システム管理
- Virtual Infrastructure Web Access システム管理者ガイド
- サーバ構成ガイド
- PXE インストールを準備するには、『*VMware Installation and Upgrade Guide for Virtual Infrastructure 3* (インストールおよびアップグレードガイド)』の第 6 章「Remote and Scripted Installations (リモートおよびスクリプトインストール)」を参照してください。

VMware ESX Server インストールの作業マップ

次の表で、インストール手順が本書のどの節で説明されているかを確認してください。

インストール作業	関連する節
システムに関する情報を収集します。	「VMware のインストールと管理ドキュメント」(56 ページ)
ISO イメージをダウンロードして CD に書き込みます。	「CD/DVD からの VMware ESX Server のインストール」(57 ページ)
ローカルまたはネットワークに接続された CD または仮想 CD ドライブを使用して、VMware ESX ソフトウェアのインストールを開始します。	「ローカルメディアからの VMware ESX Server のインストール」(58 ページ)
特定のネットワークインタフェースを識別します。	「ネットワークインタフェースの計画」(57 ページ)
VMware ESX Server 3 ソフトウェアのインストールを完了します。	http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html
必要に応じて、ESX Server 3 ソフトウェアをアップデートします。	「VMware のアップデートおよびパッチ」(59 ページ)

ネットワークインタフェースの計画

Virtual Infrastructure 3 のサービスコンソールおよび管理インタフェースは、ネットワークインタフェースによって異なります。サービスコンソールは、ライブ接続で最初のインタフェースを自動的に使用するわけではないので、すべてのネットワークインタフェースを物理的に接続しない場合は、ライブインタフェースをホスト管理サービスコンソールと関連付ける必要があります。

ネットワークインタフェースの配線とこれらのインタフェースに関する BIOS の考慮点については、『*Sun Fire X4250 Server Service Manual* (Sun Fire X4250 サーバーサービスマニュアル)』を参照してください。

デフォルトでは、`vmnic0` がサービスコンソールの通信用に割り当てられています。

CD/DVD からの VMware ESX Server のインストール

ここでは、ローカルの CD-ROM または Java コンソールからリダイレクトされた仮想 CD-ROM から VMware ESX Server をインストールする方法を説明します。

開始前のご注意

- VMware ESX Server 関連のドキュメントを確認します。
- CD/DVD ドライブが内蔵されていない場合は、ネットワークに接続された仮想 CD/DVD、または USB で接続した CD-ROM ドライブを使用します。

▼ CD/DVD から VMware ESX Server をインストールする

1. CD 書き込み機能のある、ネットワークに接続されたシステムを使用する場合、次のサイト ISO イメージをダウンロードします。

<http://www.vmware.com/>

2. イメージを CD に書き込みます。

注 – Java リモートコンソールを使用して CD ドライブまたはイメージをリダイレクトする場合は、デバイスタイプとして「Host Device (ホストデバイス)」を選択できます。

3. ESX Server ソフトウェアを Sun Fire X4250 システムにインストールします。

4. 必要に応じて、ESX Server ソフトウェアをアップデートします。

次のサイトから利用可能なアップデートをダウンロードします。

<http://www.vmware.com/support/>

手順は、次の節で説明します。

ローカルメディアからの VMware ESX Server のインストール

VMware ESX Server 3.0.2 以降を Sun Fire X4250 サーバーにインストールするには、次の要件を満たす必要があります。

- USB キーボードおよびマウスが、Sun Fire サーバーの背面にある USB ポートに接続されていること、または Java リモートコンソールからアクセスできること。
- モニターが Sun Fire サーバーに接続されていること (リモート KVM を使用する場合は不要)。
- 内蔵 CD-ROM がない場合は、次のいずれかを選択します。
 - サーバーに接続された外部 USB CD/DVD ドライブ。
–または–
 - リモートコンソールからリダイレクトされた仮想 CD ドライブ (物理ドライブが接続されていない場合のみ)。
- VMware ESX メディアの CD-ROM。
- 『*Installation and Upgrade Guide for VMware Infrastructure* (VMware Infrastructure のインストールおよびアップグレードガイド)』

▼ ローカルメディアから VMware ESX Server をインストールする

1. Sun Fire システムの電源を入れます。
2. メディアを CD-ROM ドライブに挿入します。
サーバーが CD から起動し、次の boot プロンプトが表示されます。
boot:
3. 次の手順に従って、使用するインタフェースを選択します。
 - グラフィカルモードで操作する場合は、Enter キーを押します。
-または-
 - テキストモードで操作する場合は、次のコマンドを入力します。
esx text
4. ネットワークに接続されたシステムから、次の Web サイトにアクセスします。
http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html
5. 『*Installation and Upgrade Guide for VMware Infrastructure* (VMware Infrastructure のインストールおよびアップグレードガイド)』を確認します。
ドキュメントの手順に従ってインストールを行います。
6. Sun Fire 固有のネットワークインタフェースを識別します。
7. Sun Fire システムのサービスコンソールウィンドウで、対応する利用可能なネットワーク構成を特定します。
8. VMware のインストールを完了します。
詳細は、次のサイトの 『*Installation and Upgrade Guide for VMware Infrastructure* (VMware Infrastructure のインストールおよびアップグレードガイド)』 (http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html) を参照してください。

VMware のアップデートおよびパッチ

アップデート用の VMware ESX Server イメージが公開された場合は、次のサイトからダウンロードできます。

<http://www.vmware.com/support/>

Solaris 出力のシリアルポートへのリダイレクト

次の手順は、Solaris オペレーティングシステム (OS) の出力を Sun Fire X4250 サーバーからシリアルコンソールへリダイレクトする方法を示します。ソフトウェアをインストールした後、この手順に従って OS 出力をリダイレクトします。

注 – OS のインストール中にサーバー出力をコンソールにリダイレクトする方法については、[第 3 章](#)の指示を参照してください。

▼ Solaris 出力をシリアルポートにリダイレクトする

1. Solaris がインストールされたら、root (スーパーユーザー) としてサーバーにログインします。
2. 次のファイルを編集します。
 - a. /boot/solaris/bootenv.rc ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
setprop console 'ttya'
setprop ttya-mode 115200,8,n,1,-
```
 - b. ファイルを保存して、閉じます。
 - c. /boot/grub/menu.lst ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
kernel /platform/i86pc/multiboot -B console=ttya
```
 - d. ファイルを保存して、閉じます。
 - e. /kernel/drv/asy.conf ファイルの最後に、次の行を追加します。

```
name="asy" parent="isa" reg=1,0x2f8,8 interrupts=3;
```
 - f. ファイルを保存して、閉じます。

- g. /var/svc/manifest/system/console-login.xml ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
<propval name='label' type='astring' value='9600' />
```

- h. ファイルを保存して、閉じます。

3. 次のコマンドで、システムをリブートします。

```
# reboot -- -r
```

SP CLI プロンプトが表示されます。

4. 次のコマンドを実行します。

```
-> start /SP/console
```

起動しているシステムのコンソールの出力が表示されるようになります。

Windows RIS インストールの実行

この付録では、リモートインストールサービス (RIS) のネットワークインストールを使用して、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを Sun Fire X4250 サーバーにインストールする方法について説明します。インストールする Windows Server 2003 のバージョンに対応する節を参照してください。

- 「Windows Server 2003 SP1 32 ビット版のインストール」 (63 ページ)
- 「Windows Server 2003 SP1 64 ビット版のインストール」 (68 ページ)

Windows Server 2003 SP1 32 ビット版のインストール

▼ Windows Server 2003 SP1 32 ビット版をインストールする

1. RIS サポートを Windows Server 2003 システムにインストールします。RIS を Windows Server 2003 にインストールする方法の詳細については、次のアドレスにアクセスしてください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;325862>

2. 次の手順に従って、Windows Server 2003 SP1 32 ビット版を RIS サーバーにインストールします。
 - a. Windows Server 2003 SP1 32 ビット版の CD を RIS サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. 「スタート」メニューで、「ファイル名を指定して実行」を選択します。

- c. 「ファイル名を指定して実行」フィールドに **risetup.exe** と入力して、Enter キーを押します。
「Welcome to the Remote Installation Services Setup Wizard (リモートインストールサービスのセットアップウィザードの開始)」画面が表示されます。
 - d. 「Next (次へ)」をクリックします。
 - e. 「Add a New OS image to this remote installation server (新しい OS イメージをこのリモートインストールサーバーに追加する)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - f. Windows 2003 SP1 32 ビット版 CD が入っているドライブの場所を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - g. 保存した Windows 2003 SP1 32 ビット版 CD の内容がわかる名前を付け、「Next (次へ)」をクリックします。
例: **X4250_Windows_2003_SP1_32bit**
 - h. エンドユーザー向けにわかりやすい説明とヘルプテキストを入力し、「Next (次へ)」をクリックします。
 - i. 「Use the old client installation screens (古いクライアントインストール画面を使う)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - j. 設定を確認し、「Finish (完了)」をクリックしてイメージをインストールします。
 - k. イメージがサーバーにインストールされたら、「Done (完了)」をクリックします。
3. Windows 2003 SP1 32 ビット版用 RIS Intel Ethernet ドライバで、[手順 2](#) で作成した RIS イメージをアップデートします。
RIS Intel Ethernet ドライバは、Tools and Drivers CD に収録されています。
 - a. Tools and Drivers CD を RIS サーバーに挿入します。
 - b. 次のコマンドを使って、Windows 2003 SP1 32 ビット版用 RIS Intel Ethernet ドライバのファイルを RIS サーバーのローカルにコピーします。

```
> copy cdrom_drive:\drivers\windows\IntelNIC\2003\RIS\2003_32\* C:\temp\intel
```

cdrom_drive は、Tools and Drivers CD を挿入したメディアドライブです。
 - c. c:\temp\intel ディレクトリにあるすべてのファイルを RIS サーバー上にある RIS イメージにコピーします。次に例を示します。

```
> copy C:\temp\intel\*.* D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\i386
```

4. D:\RemoteInstall\Setup\English\Image\image_dir\i386\templates (image_dir は RIS イメージが格納されている RIS サーバー上のディレクトリ)にある ristndrd.sif ファイルに、次のテキストを追加します。

```
[Unattended]
OemPreinstall=yes
[GuiUnattended]
AdminPassword="password"
```

- a. お使いのコントローラカードに応じて、ファイルに次のテキストを追加します。
- i. LSI SAS3081E-R カードの場合、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic;\drivers\chipset;\drivers\video;\drivers\tpm"

[MassStorageDrivers]
"LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (Server 2003 32-bit)"="OEM"

[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
cocopyinf.dll
lsi_sas.cat
lsi_sas.inf
lsi_sas.sys
lsi_sas.tag
lsipseud.inf
symmpi.inf
symmpi.sys

[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

ii. Sun StorageTek カードの場合、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic;\drivers\chipset;\drivers\
video;\drivers\tpm"

[MassStorageDrivers]
"Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller"="OEM"

[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
raiddisk1
arcsas.cat
arcsas.inf
arcsas.sys

[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

5. \$oem\$ ディレクトリとサブディレクトリを RIS イメージに追加します。
 - a. \$oem\$ サブディレクトリを次の場所にある RIS イメージに追加します。
d:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir
image_dir は、RIS イメージを格納している RIS サーバーのディレクトリです。
 - b. \$oem\$ ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
\$1
textmode
 - c. \$1 ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
ドライバ[どらいば]
 - d. drivers ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
nic
chipset
video
tpm
6. ドライバファイルを \$oem\$ ディレクトリツリーにコピーします。
Tools and Drivers CD には、次に示す場所に Windows 2003 SP1 32 ビット版ドライバが収録されています。

- a. LSI SAS3081E-R カードの場合、次のファイルをコピーします。

```
> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\RAID\LSI\2002_32\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\textmode

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\RAID\chipset\win2003\SP\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\sp

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\IntelNIC\2003\2003_32\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
nic

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\chipset\win2003\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
chipset

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\TPM\2003_32\TOM Driver\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
tpm

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\Display\2003_32\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
video
```

- b. Sun StorageTek カードの場合、次のファイルをコピーします。

```
> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\boot\RAID\StorageTEK\32bit\* D:\
remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\textmode

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\RIS\chipset\* D:\remoteinstall\
setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\chipset

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\TPM\tpm_sp1_x_x_x.zip\Win32\TPM
Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\
drivers\tpm

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\Display\32bit\* D:\
remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\video
```

7. txtsetup.oem ファイルを修正します。

- a. テキストエディタで、D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\
image_dir\%oem%\textmode\txtsetup.oem ファイルを開きます。
image_dir は、RIS イメージを格納している RIS サーバーのディレクトリです。
- b. [Files.scsi.RAIDCLASS] および [Files.scsi.BUSDRV] セクションにある
d11 ファイルの各行の先頭にセミコロンを追加してコメントアウトします。
- c. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。

8. コマンドプロンプトに次のように入力して、RIS サーバーのリモートインストールサービス (BINLSVC) を終了して開始します。

```
net Stop binlsvc  
net Start binlsvc
```

9. イメージを Sun Fire X4250 サーバーにインストールします。

Windows Server 2003 SP1 64 ビット版のインストール

▼ Windows Server 2003 SP1 64 ビット版をインストールする

1. RIS サポートを Windows Server 2003 システムにインストールします。RIS を Windows Server 2003 にインストールする方法の詳細については、次のアドレスにアクセスしてください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;325862>

2. Windows Server 2003 SP1 64 ビット版を RIS サーバーにインストールします。
 - a. Windows Server 2003 SP1 64 ビット版の CD を RIS サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. 「ファイル名を指定して実行」フィールドに **risetup.exe** と入力して、Enter キーを押します。
「Welcome to the Remote Installation Services Setup Wizard (リモートインストールサービスのセットアップウィザードの開始)」画面が表示されます。
 - c. 「Next (次へ)」をクリックします。
 - d. 「Add a new OS image to this remote installation server (新しい OS イメージをこのリモートインストールサーバーに追加する)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - e. Windows 2003 SP1 64 ビット版 CD が入っているドライブの場所を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。

- f. 保存した Windows 2003 SP1 64 ビット版 CD の内容がわかる名前を付け、「Next (次へ)」をクリックします。
例: **X4150_Windows_2003_64bit**
 - g. エンドユーザー向けにわかりやすい説明とヘルプテキストを入力し、「Next (次へ)」をクリックします。
 - h. 「Use the Old Client Installation Screens, and overwrite the old ones (古いクライアントインストール画面を使用し、古い画面を上書きする)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - i. 「Review Settings (設定の確認)」ウィンドウで設定を確認し、「Finish (完了)」をクリックします。
 - j. イメージがサーバーにインストールされたら、「Done (完了)」をクリックします。
3. Windows 2003 SP1 64 ビット用 RIS Intel Ethernet ドライバで、[手順 2](#) で作成した RIS イメージをアップデートします。
RIS Intel Ethernet ドライバは、Tools and Drivers CD に収録されています。
- a. Tools and Drivers CD を RIS サーバーに挿入します。
 - b. Windows 2003 SP1 64 ビット用 RIS Intel Ethernet ドライバのファイルを、次の手順に従って、RIS サーバーにローカルにコピーします。
copy cdrom-drive:\drivers\windows\IntelNIC\2003\RIS\2003_64* C:\temp\intel
cdrom_drive は、Tools and Drivers CD を挿入したメディアドライブです。
 - c. c:\temp\intel ディレクトリにあるすべてのファイルを RIS サーバー上にある RIS イメージにコピーします。次に例を示します。
copy C:\temp\intel*. * D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\amd64
image_dir は、RIS イメージを格納している RIS サーバーのディレクトリです。
4. 次の内容を追加して、ristndrd.sif ファイルを修正します。
ristndrd.sif ファイルの場所は、D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\amd64\templates です。
image_dir は、RIS イメージを格納している RIS サーバーのディレクトリです。
- a. 次のエントリを変更します。
[Unattended]
OemPreinstall = yes
[GuiUnattended]
AdminPassword = "password"

- b. お使いのカードに応じて、次のエントリを追加します。
- LSI SAS3081E-R カードの場合、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic;\drivers\chipset;\drivers\
video;\drivers\tpm"

[MassStorageDrivers]
"LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (Server 2003 x64)"="OEM"

[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
s2k3am64.cat
lsi_sas.sys
lsi_sas.inf
lsinodrv.inf

[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

- Sun StorageTek カードの場合、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic;\drivers\chipset;\drivers\
video;\drivers\tpm"

[MassStorageDrivers]
"Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller"="OEM"
"Adaptec RAID Controller (x64 device drivers)"="OEM"

[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
raiddisk1
arcsas.cat
arcsas.inf
arcsas.sys

[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

5. `oem` ディレクトリとサブディレクトリを RIS イメージに追加します。
 - a. `oem` サブディレクトリを次の場所にある RIS イメージに追加します。
`d:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir`
`image_dir` は、RIS イメージを格納している RIS サーバーのディレクトリです。
 - b. `oem` ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
`$1`
`textmode`
 - c. `$1` ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
`drivers`
 - d. `drivers` ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
`nic`
`video`
`chipset`
`tpm`
6. ドライバファイルを `oem` ディレクトリツリーにコピーします。
 Tools and Drivers CD には、次に示す場所に Windows 2003 SP1 64 ビットドライバが収録されています。
 - a. LSI 3081E-R カードの場合、次のエントリを追加します。

```

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\RAID\LSI\2003_64\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\textmode

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\chipset\win2003\SP\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\sp

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\IntelNIC\2003\2003_64\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
nic

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\chipset\win2003\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
chipset

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\TPM\2003_64\TPM Driver\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
tpm

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\Display\2003_64\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
video

```

b. Sun StorageTek カードの場合、次のエントリを追加します。

```
> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\boot\RAID\StorageTEK\64bit\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\textmode

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\RIS\chipset\* D:\remoteinstall\
setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\chipset

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\TPM\tpm_sp1_x_x_x.zip\x64\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
tpm

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\Display\64bit\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
video
```

7. txtsetup.oem ファイルを修正します。

a. テキストエディタで、D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\
image_dir\%oem%\textmode\txtsetup.oem ファイルを開きます。
image_dir は、RIS イメージを格納している RIS サーバーのディレクトリです。

b. ファイルを保存して、閉じます。

8. コマンドプロンプトに次のように入力して、RIS サーバーのリモートインストー
ルサービス (BINLSVC) を開始して終了します。

```
net Stop binlsvc
net Start binlsvc
```

9. イメージをサーバーにインストールします。

ネットワークインタフェースの構成

Sun Fire X4250 サーバーのネットワークインタフェースカード (NIC) コネクタには、次のように物理的ラベルが付いています。

表 C-1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
net0	第 1 Intel インタフェース
net1	第 2 Intel インタフェース
net2	第 3 Intel インタフェース
net3	第 4 Intel インタフェース

索引

数字

64 ビットの Windows Server 2003 のインストール, 68

C

CD-ROM からの VMware のインストール, 57

J

Jumpstart インストール, 概要, 9

K

KVMS over IP

Red Hat Enterprise Linux のドライバのインストール, 35

Solaris ドライバのインストール, 26

SUSE Linux Enterprise Server のドライバのインストール, 35

Windows Server 2003 のドライバのインストール, 50

オペレーティングシステムのインストール, 9

L

Linux アップデートユーティリティ, 37

LSI 3081E ドライバ, 48

P

PXE、オペレーティングシステムのインストール, 9

R

RAID 構成、Windows Server 2003 のインストール, 44

Red Hat Enterprise Linux

up2date ユーティリティ, 37

オペレーティングシステムのインストール, 29
ドライバのインストール, 35

Red Hat Enterprise Linux 4

ネットワークインタフェースの構成, 73

RIS インストール

概要, 9

固有の手順, 63

S

Solaris OS

KVMS over IP を使用したドライバのインストール, 26

オペレーティングシステムのインストール, 11, 15
システム固有ドライバのインストール, 26
ドライバのダイレクトインストール, 26

SUSE Linux Enterprise Server

SuSEWatcher ユーティリティ, 38

オペレーティングシステムのインストール, 29
ドライバのインストール, 34, 35

SuSEWatcher ユーティリティ、SUSE Linux Enterprise Server, 38

U

up2date ユーティリティ、Red Hat Enterprise Linux, 37

- V**
- VMware
 - CD からインストール, 57
 - ネットワークインタフェースの有効化, 57
 - VMware のインストール, 55
 - 概要, 55
 - 作業マップ, 56
 - VMware のネットワークインタフェース, 57
- W**
- Windows RIS インストールの実行, 63
 - Windows Server 2003
 - DVD または CD-ROM メディアを使用したダイレクトインストール, 42
 - Ethernet ドライバのインストール, 50
 - KVMS over IP を使用したドライバのインストール, 50
 - RAID 構成, 44
 - RIS インストール, 63
 - SP1 64 ビット版のインストール, 68
 - オペレーティングシステムのインストール, 39
 - チップセットドライバのインストール, 50
 - ドライバのダイレクトインストール, 50
 - Windows Server 2003 のインストール, 63, 68
 - RAID 構成, 44
 - Windows Server 2003 用の Ethernet ドライバのインストール, 50
 - Windows Server 2003 用のチップセットドライバ, 50
 - Windows Update ユーティリティー, 44
- あ**
- アップデートユーティリティー
 - Linux, 37
 - Windows, 44
 - 一次起動ハードディスク、消去, 4
 - オペレーティングシステムのインストール
 - CD-ROM から, 8
 - DVD から, 8
 - Jumpstart, 9
 - PXE, 9
 - Red Hat Enterprise Linux, 29
 - RIS, 9
 - Solaris OS, 11, 15
 - SUSE Linux Enterprise Server, 29
 - Windows Server 2003, 39
 - インストール作業, 3
 - インストール方法, 7
 - 仮想 CD-ROM, 9
 - 概要, 1
 - サポートされているオペレーティングシステム, 2
 - シリアルリダイレクト, 10
 - ネットワークから, 9
 - リモート KVMS over IP, 9
 - オペレーティングシステムのインストールの準備, 3
 - オペレーティングシステムの仮想 CD-ROM, 9
- か**
- 関連ドキュメント, xi
 - 概要、オペレーティングシステムのインストール, 1
 - 起動ハードディスク、消去, 4
- さ**
- 作業の概要, 3
 - 作業マップ
 - VMware インストール, 56
 - サポートされているオペレーティングシステム, 2
 - シェルプロンプト, x
 - システム固有ドライバのインストール, 26, 34
 - Red Hat Enterprise Linux, 34
 - Solaris OS, 26
 - シリアルリダイレクトされたオペレーティングシステムのインストール, 10
- た**
- ディスプレイ環境の設定, 4
 - ドキュメント
 - Sun Fire X4250 サーバー, ix
 - 関連, xi
 - ドライバ, 26, 35
 - Red Hat Enterprise Linux, 34
 - Solaris, 26
 - SUSE Linux Enterprise Server, 35
 - Windows, 50
 - ドライバのインストール
 - SUSE Linux Enterprise Server, 34
 - ドライバのダイレクトインストール
 - Red Hat Enterprise Linux, 35
 - SUSE Linux Enterprise Server, 35
 - Windows Server 2003, 50

な

ネットワーク

オペレーティングシステムのインストール, 9

ネットワークインタフェースの構成, 73

は

表記上の規則, x

ら

リモート KVMs over IP、オペレーティングシステムのインストール, 9

